

活 動 報 告

日本語研修コース

深見兼孝

【修了者】
第38期生名簿（2004年4月～2004年9月）【11名】

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
B.A. Venmathi Maran	マラン	インド	水産学	広島大学
Agus Purwanto	アグス	インドネシア	化学工学	広島大学
Gallego, Niña Arteliz Rodriguez	ニーニャ	フィリピン	日本語教育	広島大学
Khundmaa Enkhtsatsral	ホンドマー	モンゴル	言語学	広島大学
Arguero, Luis Ignacio	ルイス	アルゼンチン	社会科学	広島大学
Barros, Breno Eduardo d Silva	ブレノ	ブラジル	生物学	広島大学
Ogwel, Joseph Carilus Ateng'	オグウェル	ケニア	理学	広島大学
Kisangi, Albert Kayesa	キサング	ケニア	理学	広島大学
Mahmoud Mahmoud Mostafa	マハムード	エジプト	生物学	広島大学
Hossain Quazi Delwar	ホサイン	バングラディッシュ	量子機能電子工学	広島大学
Sarsekenov Arman Malikovich	アルマン	カザフスタン	法学	広島大学

【修了者】

第39期生名簿（2004年10月～2005年3月）【17名】

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Mulyono	ムルヨノ	インドネシア	日本語教授法	広島大学
Arman Tirtajaya	アルマン	インドネシア	地理教育	広島大学
Sinlapasart Sukunya	スクニャ	タイ	英語教育	広島大学
Khan, Mohummed, Iqbal Hossain	カン	バングラディッシュ	英語教育	広島大学
Maquiran, Dominique, Jacela	ドミニク	フィリピン	社会教育	広島大学
Buenavista, Ellen, Nabos	エレン	フィリピン	障害児教育	広島大学
San San Maw	サンサンモー	ミャンマー	科学教育	広島大学
Oliveira, Augusto Hosanna Assis De	アウグスト	ブラジル	環境教育	広島大学
Ungureanu, Aurelian	アウレリアン	ルーマニア	障害児教育	広島大学
Al-Elyani Mohammed Misfer	モハメド	サウジアラビア	教育学	広島大学
Muia, Dorothy Mutanu	ドロシー	ケニア	化学教育	広島大学
Ochola, Alloys Owuor	アロイス	ケニア	生物教育	広島大学
Xiang Hongying	シャン	中国	化学教育	広島大学
Kalugin, Andrei Mikhailovich	アンドレイ	ロシア	環境科学	広島大学
Van Houwelingen, Pepijn	ペペイン	オランダ	公共政策学	広島市立 大学
Cui Yujie	ツイ	中国	比較国際教育学	広島大学
Jabbari Kalkhoran Alieh	ジャバリ	イラン	表象言語文化学	広島大学

第38期（2004年4月～2004年9月）予定表

期日	行事／試験等	見学 (総合演習)	備考
4/9	4/9 (金) 11:00 オリエンテーション(K308)		
4/12 - 4/16	4/12 (月) 11:00開講式 (教育学部第3・ 第4会議室)		4/12 (月) 11:30ホストファミリー案内 (K308)
4/19 - 4/23		4/23 (金) 広島市	4/23 (金) 17:30 ホストファミリー対面式
4/26 - 4/30			4/29 (木) 公休日
5/3 - 5/7			5/3～5/5 (月～水) 公休日
5/10 - 5/14			
5/17 - 5/21			
5/24 - 5/28		5/28 (金) 宮島	
5/31 - 6/4			
6/7 - 6/11	6/9 (水) 中間試験 6/10 (木) 「専門用語解説」 開始		
6/14 - 6/18			
6/21 - 6/25			
6/28 - 7/2			
7/5 - 7/9		7/9 (金) マツダ	
7/12 - 7/16			
7/19 - 7/23			7/19 (月) 公休日
7/26 - 7/30			
8/2 - 8/31	夏休み		
9/1 - 9/3	9/1 (水) 期末試験 9/1～9/3 (水～金) 特別講義		
9/6	9/6 (月) 13:00成果発表会 (教育学部第 3・第4会議室) 15:00修了式 (同上)		

第39期(2004年10月～2005年3月)予定表

期日	行事/試験等	見学 (総合演習)	備考
10/12-10/15	10/12(火) 9:40 オリエンテーション(K308) 10/13(水) 11:00 開講式(教育学部第3・4会議室)		10/13(水) 11:30ホストファミリー案内 (K308)
10/18-10/22		10/22(金) 広島市	10/22(金) 17:00 ホストファミリー対面式
10/25-10/29			
11/1-11/5			11/3(水) 公休日 11/6(土) 国際交流会館 防災訓練
11/8-11/12	11/11(木) 「専門用語解説」 開始(～1/27)		11/8(月) 健康診断(女性) 11/9(火) 健康診断(男性)
11/15-11/19			
11/22-11/26		11/26(金) 宮島	11/23(火) 公休日
11/29-12/3			
12/6-12/10	12/8(水) 中間試験		
12/13-12/17		12/17(金) 福山市	
12/20-12/23			12/23(木) 公休日
12/24-1/7	冬休み		
1/10-1/14		1/15(土)・ 16(日) 国際 交流キャンプ (江田島)	1/10(月) 公休日
1/17-1/21		1/21(金) マツダ	
1/24-1/28			
1/31-2/4			
2/7-2/11			2/11(金) 公休日
2/14-2/18	2/16(水) 期末試験		
2/21-2/25	特別講義		
2/28-3/2	2/28(月)～3/1(火) 特別講義 3/2(水) 13:30修了式(教育学 部第3・4会議室) 14:00成果発表会(同上)		

講師一覧

第 38 期(2004 年 4 月～2004 年 9 月)

専任 浮田三郎 玉岡賀津雄 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 今石正人 石井敬子 茅本百合子 後藤美知子 佐藤道雄

[専門用語解説]

池田秀雄(国際協力研究科) 伊藤敏安(社会科学研究科) 岩田穆(先端物質科学研究科) 大塚攻(生物生産学部) 奥山喜久夫(工学研究科) 具島健二(生物生産学部) 小山正孝(教育学研究科) 高永茂(文学研究科) 中井敏博(生物圏科学研究科) 西谷元(社会科学研究科) 難元孝夫(工学研究科) 横溝紳一郎(教育学研究科)

第 39 期(2004 年 10 月～2005 年 3 月)

専任 浮田三郎 玉岡賀津雄 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 今石正人 石井敬子 茅本百合子 後藤美知子 佐藤道雄

[専門用語解説]

植木研介(文学研究科) 大塚豊(教育学研究科) 落合俊郎(教育学研究科) 小原友行(教育学研究科) 金子慎治(国際協力研究科) 古賀信吉(教育学研究科) 迫田久美子(教育学研究科) 清水欽也(教育学研究科) 宿元明(社会科学研究科) 鳥越兼治(教育学研究科) 深澤清治(教育学研究科) 船津守久(教育学研究科) 古川義宏(教育学研究科) 前杢英明(教育学研究科) 松崎寛(教育学研究科) 柳瀬陽介(教育学研究科) 山崎敬人(教育学研究科)

日本語教育部門：日本語・日本事情
(2004年4月～2005年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留 学生のための授業で ある。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	
総合日本語中級ⅠA	1	2		
総合日本語中級ⅠB	1	2		
総合日本語中級ⅠC	1	2		
総合日本語中級ⅠD	1		2	
総合日本語中級ⅠE	1		2	
総合日本語中級ⅠF	1		2	
総合日本語中級ⅡA	1	2		
総合日本語中級ⅡB	1	2		
総合日本語中級ⅡC	1	2		
総合日本語中級ⅡD	1		2	
総合日本語中級ⅡE	1		2	
総合日本語中級ⅡF	1		2	

日本語聴解特別演習 A	1	2	
日本語聴解特別演習 B	1		2
日本語分析特別演習 A	1	2	
日本語分析特別演習 B	1		2
日本語表現特別演習 A	1	2	
日本語表現特別演習 B	1		2
日本語古文特別演習 B	1	2	
日本語古文特別演習 B	1		2
日本語語彙特別演習 A	1	2	
日本語語彙特別演習 B	1		2
映像日本語特別演習 A	1	2	
映像日本語特別演習 B	1		2
日本の社会・文化 A	1	2	
日本の社会・文化 B	1		2
日本の思想・哲学 A	1	2	
日本の思想・哲学 B	1		2
日本の地域・文化 A	1	2	
日本の地域・文化 B	1		2
日本語・日本文化特別研究 I A	4		4
日本語・日本文化特別研究 I B	4		4
日本語・日本文化特別研究 I C	4		4
日本語・日本文化特別研究 II A	4	4	
日本語・日本文化特別研究 II B	4	4	
日本語・日本文化特別研究 II C	4	4	

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設	学期別週授業時数		備 考
	単位数	前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留 学生のための授業で ある。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC
担当教官	石原 淳也・深見 兼孝・堀田 泰司・山中 康子
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官	田村 泰男・中川 正弘・下村 真理子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル3

授業科目	総合日本語中級 I A・I B
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	扱う内容は以下の通り。 第1週～第7週 グラフの読み方、旅行、手紙、手紙の書き方、買い物、テスト(1) 第8週～第15週 祭り、プレゼント、アンケート、アンケートの方法、テスト(2)
テキスト	「トピックによる日本語総合演習・中級前期」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教官	坂田 光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り50日 vol.2」 (凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教官	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	毎回ひとつのトピックスについての平易な文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとに次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り 50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」(アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教官	山中 康子
目 標	ニュースの聞き取りを通じて、ニュースに特有な表現・語彙に慣れ、必要な情報を選択する能力を養うとともに、日本社会に対する知識を増やすことを目的とする。
内 容	(前半) 短文聴解 日常的な話題の聴解 1. 自然 2. 事故 3. 生活 4. 社会 (後半) 長文聴解総合的な話題の聴解 1. 社会経済 2. 政治 3. 医学 4. スポーツ
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。ながら、まい、わけだ、でも、ほど、なら、ても、てくる、てしまう、ながら、よう、がる、ことにする／なる、～とか～とか、てたまらない、ばかり、ものだ、てみる、中、～し～し、かもしれない、つもり、くらい、なければならない、まま、～から～にかけて、ものの、～やら～やら、につれて、～ば～ほど、として、によって、ところ、にとつて、はず、さえ、うち
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教官	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

・レベル5

授業科目	日本語聴解特別演習A
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習B
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習 A
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習 B
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習 A
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喻表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習 B
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喻表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喻
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語古文特別演習A
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習B
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習A
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習B
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習A
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習B
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化A
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー 7. 試験 8. 9. 生命倫理 10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の社会・文化B
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の思想・哲学A
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の思想・哲学B
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	「日本の思想・哲学A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の地域・文化A
担当教官	玉岡 賀津雄
目 標	日本の地域と文化を理解すること。
内 容	広島大学の留学生を対象に、日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産、風土、人々の生活を探っていく。授業では、ビデオ、DVDなどを使って、実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また、ゲストを招いて、さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Aでは、日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	日本の地域・文化B
担当教官	玉岡 賀津雄
目 標	日本の地域と文化を理解すること。
内 容	地域と文化Aと引き続き、広島大学の留学生を対象に、日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産、風土、人々の生活を探っていく。授業では、ビデオ、DVDなどを使って、実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また、ゲストを招いて、さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Bでは、日本の北の地域(東京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

・特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級 I A
担当教官	山中 康子
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語初級 I B
担当教官	渡部 浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA
担当教官	渡部 浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	<p>第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1)</p> <p>第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2)</p> <p>第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)</p>
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目
(2004年4月～2005年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期交換留学生のための授業である。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		

Advanced Japanese A (Listening)	2	2	
Advanced Japanese B (Listening)	2		2
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2	
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2
Advanced Japanese A (Expression)	2	2	
Advanced Japanese B (Expression)	2		2
Advanced Japanese A (Classical)	2	2	
Advanced Japanese B (Classical)	2		2
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2	
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2	
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2
Japanese Society and Culture A	2	2	
Japanese Society and Culture B	2		2
Japanese Thought and Philosophy A	2	2	
Japanese Thought and Philosophy B	2		2
Japanese Community and Culture A	2	2	
Japanese Community and Culture B	2		2

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C・I D
担当教官	堀田 泰司・松崎 寛・渡辺 久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級I 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教官	恒松 直美・松崎 寛・渡辺 久美
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級II 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教官	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	毎回ひとつのトピックスについての平易な文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとに次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	扱う内容は以下の通り。 第1週～第7週 グラフの読み方、旅行、手紙、手紙の書き方、買い物、テスト(1) 第8週～第15週 祭り、プレゼント、アンケート、アンケートの方法、テスト(2)
テキスト	「トピックによる日本語総合演習・中級前期」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教官	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り50日 vol.2」 (凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。ながら、まい、わけだ、でも、ほど、なら、ても、てくる、てしまう、ながら、よう、がる、ことにする／なる、～とか～とか、てたまらない、ばかり、ものだ、てみる、中、～し～し、かもしれませぬ、つもり、くらい、なければならぬ、まま、～から～にかけて、ものの、～やら～やら、につれて、～ば～ほど、として、によって、ところ、にとって、はず、さえ、うち
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教官	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、(1)イラストによって、教材の内容を概観する。(2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。(3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後、(4)タスクに答える。(5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。(6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。(7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」(アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教官	坂田 光美
目 標	ニュースの聞き取りを通じて、ニュースに特有な表現・語彙に慣れ、必要な情報を選択する能力を養うとともに、日本社会に対する知識を増やすことを目的とする。
内 容	(前半) 短文聴解 日常的な話題の聴解 1. 自然 2. 事故 3. 生活 4. 社会 (後半) 長文聴解総合的な話題の聴解 1. 社会経済 2. 政治 3. 医学 4. スポーツ
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材 (プリント配布)
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese B (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材 (プリント配布)
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 畳語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー 7. 試験 8. 9. 生命倫理 10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Thought and Philosophy A
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	Japanese Thought and Philosophy B
担当教官	橋本 敬司
目 標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内 容	「日本の思想・哲学A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	Japanese Community and Culture A
担当教官	玉岡 賀津雄
目 標	日本の地域と文化を理解すること。
内 容	広島大学の留学生を対象に、日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産、風土、人々の生活を探っていく。授業では、ビデオ、DVDなどを使って、実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また、ゲストを招いて、さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Aでは、日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	Japanese Community and Culture B
担当教官	玉岡 賀津雄
目 標	日本の地域と文化を理解すること。
内 容	地域と文化Aと引き続き、広島大学の留学生を対象に、日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産、風土、人々の生活を探っていく。授業では、ビデオ、DVDなどを使って、実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また、ゲストを招いて、さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Bでは、日本の北の地域(東京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

第19期 (2003～2004)
日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本留学生センターで受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、留学生センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されている。また、本プログラムは (1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教官のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教官と留学生センターにレポートを提出する。留学生センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第19期の研修留学生の出身国、男女比の構成は次の通りであった(括弧内は、うち部局間協定に基づく教育学部受け入れ人数。)

男子3 女子8 (3)

出身国

インドネシア1 (1)、中国1、韓国1、アメリカ1、イタリア2、ドイツ1、トルコ1、ルーマニア1、カザフスタン1、ニュージーランド1

<特別講義等>

平成14年度後期および、平成15年度前期に実施された02年度(第18期)日本文化特別講義・見学プログラム、および、その他の行事は、以下の通りである。

2003年

10月3日(金) プレイスメントテスト

10月6日(月) 授業開始

10月8日(水) 開講式

10月10日(金) オリエンテーション

10月13日(月) 西条オリエンテーションバスツアー

10月17日(金) 特別講義1「日本語音声学・音韻論1」(留学生センター石原助教授)

10月24日(金) 広島市見学1

10月31日(金) 尾道市見学

11月7日(金) 特別講義2「コンピュータの利用」(留学生センター中川教授)

11月14日(金) 特別講義3「日本の学力観の変遷」(留学生センター中矢講師)

11月21日(金) 宮島見学

11月28日(金) 特別講義4「日本語音声学・音韻論2」(留学生センター石原助教授)

12月5日(金) レポート発表会

12月19日(金) マツダ見学

2004年

1月9日(金) 特別講義6「日本の政治・経済入門」(留学生センター石原助教授)

1月16日(金) 広島市見学2(広島市現代美術館・映像文化ライブラリー)

1月23日(金) 特別講義7「沖縄のことばと文化」(留学生センター多和田教授)

1月30日(金) 特別講義8「現代日本語の語彙1」(留学生センター田村助教授)

2月6日(金)「プログラム修了生に話を聞く」

2月13日(金)、14日(土) 特別講義「しまなみ・瀬戸内地域見学旅行」

4月16日(金) オリエンテーション

4月23日(金) 福山見学

4月30日(金) 特別講義9「比較言語文化論の視点」(留学生センター浮田教授)

5月7日(金) 特別講義10「日本人のアイデンティティとパワー」

(留学生センター恒松講師)

5月14日(金) 研修レポート構想発表1/2

5月21日(金)、22(土) 特別講義 11「古代日本文化と山陰の歴史(松江・出雲見学旅行)」

(留学生センター石原助教授)

5月28日(金) 研修レポート構想発表 2/2

6月4日(金) 特別講義 12「現代日本語の語彙 2」(留学生センター田村助教授)

6月11日(金) 特別講義 13「現代日本語の語彙 3」(留学生センター田村助教授)

6月18日(金) 特別講義 14「日本語と文体 1」(留学生センター中川教授)

6月25日(金) 特別講義 15「『アジア』について考える」(教育学研究科中村教授)

7月2日(金) 呉・下蒲刈見学

7月9日(金) 特別講義 16「日本語と文体 2」(留学生センター中川教授)

7月16日(金) 特別講義 17「オタク文化」(留学生センター石原助教授)

7月23日(金) レポート作成

7月30日(金) 特別講義 18「マンガ・アニメの歴史」(留学生センター石原助教授)

9月1日(水) レポート提出締め切り

9月7日(火) レポート発表会、修了式

第5期 平成16年度(2004年度)

広島大学日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても5名の学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつを四年にわたり受け入れてきたが、平成16年度は2名の受け入れとなった。

留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓理工系学部留学生事業」ワーキンググループ(国際交流委員会の下に設置され、同年8月「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会となる。)の発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた(平成12年度、13年度の経緯については多和田教授による「広島大学日韓理工系学部留学生事業発足前後」『広島大学留学生教育第6号』を参照。)が、法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されることとなり、本事業に対する留学生センターの関与はより大きくなった。

翻事業において留学生センターは

1. 「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言(部会委員は予備教育期間中指導教官となる)
4. 「広島大学日韓理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
7. その他謝金講師のサポート
8. 予備教育講師謝金等経費の管理

等の業務を行っている。

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を開講していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」のレベル 3 とレベル 4 を週当たり計 6 コマ（12 時間）履修させることとなった。なお、その他の予備教育科目および週当たり時間数は以下の通りである。

数学 2 コマ（4 時間） 物理 2 コマ（4 時間）

化学 2 コマ（4 時間） 英語 1 コマ（2 時間）

日韓対照文化論・日本語 3 コマ（6 時間）

また、本年度実施した諸行事は以下の通りである。

	期間	行事等	見学(金曜午後)	備考
W0	10/5-10/10	5 渡日、6 諸手続 8 開講式、プレイスメントテスト 交流会館オリ、全学オリ、 9 オリエンテーションバスツアー		
W1	10/11-10/17	11 体育の日 12 授業開始		月なし
W2	10/18-10/24		広島見学	
W3	10/25-10/31			
W4	11/1-11/7	3 文化の日 6 交流会館防災訓練		水なし
W5	11/8-11/14			
W6	11/15-11/21	20 全学バス旅行	サタケ見学	
W7	11/22-11/28	23 勤労感謝の日	宮島見学	火なし
W8	11/29-12/5	29 留学生懇親会		
W9	12/6-12/12			
w10	12/13-12/19			
W11	12/20-12/22			木金なし
		冬休み (12/23-1/10)		
W12	1/10-1/16	10 成人の日	15,16 江田 島キャンプ	月なし
W13	1/17-1/23			
W14	1/24-1/30			
W15	1/31-2/6			
W16	2/7-2/13	11 建国記念日		金なし
W17	2/14-2/20	補講期間 18 修了式		

平成 16 年度広島大学留学生センター指導部門活動報告 および広島大学留学生支援調査の結果報告

玉岡賀津雄、中矢礼美

1. はじめに

広島大学では、優れた世界トップレベルの特色ある大学として発展することを目指し、国際化目標を示している。留学生センター指導部門の役割としては、国際化目標における「(1) ひとの国際化目標」における「学ぶひとの国際化」および「教育・研究に携わるひとの国際化」、 「(3) キャンパスの国際化目標」の「フレンドリーなキャンパスライフの実現」の達成であるといえる。

この役割を果たすべく、以下のように指導部門の中期目標および 16 年度計画を立てた。

中期計画	年度計画
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育の成果に関する目標を達成するための措置</p> <p>(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生相談協議会（仮称）を開催し、状況報告を行い、関係部局・センターとの連携を図る。 ・留学生に対する多角的な相談窓口を用意する。 ・国際交流ボランティア制度をさらに発展・拡充し、留学生のための学習支援体制を整備すると同時に、会話パートナー制度を充実させ、日本語会話能力の向上に資する。 <p>2. 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準および研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島大学の留学生ばかりでなく広島地域全体の留学生に関する調査を行ない、地域社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生相談協議会を 2 回開催し、状況報告を行い、関係部局・センターとの連携を図る。 ・留学生に対する多角的な相談窓口を用意する。 ・国際交流ボランティア制度をさらに発展・拡充し、留学生のための学習支援体制を整備すると同時に、会話パートナー制度を充実させ、日本語会話能力の向上に資する。 <ul style="list-style-type: none"> ・広島大学留学生ばかりでなく広島地域全

<p>の留学生受け入れについて政策提言を広島市や東広島市に対して行う。</p>	<p>体の留学生に関する調査に関する報告をまとめる。</p>
<p>3 その他の目標を達成するための措置 (1) 社会との連携, 国際交流等に関する目標を達成するための措置 ・広島国際交流ボランティア制度と留学生国際交流ボランティア制度の充実と活用による国際的な貢献と交流活動を推進する。</p>	<p>・地域社会における国際交流活動に積極的に留学生を参加させ, 日本と諸外国間の広範な分野における友好関係の促進・維持に寄与する。 ・広島国際交流ボランティア制度と留学生国際交流ボランティア制度の充実と活用による国際的な貢献と交流活動を推進する。</p>

上記の年度計画に加え, 実際の日々の業務においてはさらに広範な指導・支援活動, 研究・開発活動を行っている。その活動目標・内容の概要について, 以下報告を行うこととする。

2. 平成 16 年度の指導部門活動報告

2.1 活動の概要

1) 指導・支援活動

(1) オリエンテーション活動

新しく広島大学に来る留学生に対しては, 6段階のオリエンテーションを行っている。①ボランティア・チューターのためのオリエンテーション, ②国際交流会館生活オリエンテーション, ③全学の留学生のためのオリエンテーション, ④東広島市オリエンテーション・パスツアー, ⑤健康管理オリエンテーション, ⑥消防・防犯オリエンテーションである。

(2) 相談業務

日常の相談とカウンセリングは, 教官 2 名が終日随時相談を受け付けており, 臨床心理士の資格を持つ非常勤の心理相談員 1 名が, 週 1 回留学生の心理的な面の相談にあたっている。2001 年より行っている留学生支援調査によって, 相談者数は軒並み上昇している。多くの場合, 直ちに解決される問題は少なく, 1 度相談を経験すると垣根が低くなり, あらゆる相談を受けることになる。今後は, 留学生の数を増やすことではなく, 支援体制の充実が求められるわけであるが, 二人の教員であらゆる問題に丁寧に対応していくには, 時間が全く足りない状況にある。そのため, 中期目標として相談窓口の多様化を掲げ, 今年度は, 東広島市役所における法律相談の広報, NPO (広島ビザ・サポートセンター) との連携, 学内ハラスメント相談窓口の広報などを行った。

(3) 交流支援活動

交流支援活動としては、日本人学生国際交流ボランティア制度によって(370名登録)、日本人学生が新渡日留学生を助けたり、留学生の会話パートナーとして互いに語学を教えあったりしながら、国際交流活動を行えるようコーディネートしている。2004年4月1日から2005年3月31日までにメーリングリストを用いてボランティア・チューターや日本語学習支援などの募集をした件数は45件である(HUSAの会話パートナーを除く)。チューターおよび日本語学習支援のマッチングにあたっての対応メール総数は、のべ300回以上にのぼる。マッチング後は、日本人および留学生から通常1、2回の報告を義務付けており、問題が発生した場合には対応を行った。今年度は、男女間における意思疎通の問題等があり、双方に対応して共通理解を図ることで問題解決を行うことができた。国際交流ボランティアは、留学生の「支え」となり、ピア・サポート的役割を果たす重要な機能を持っている。今後は、このボランティア学生の質的向上に努め、留学生の支援体制の充実を一層図らなければならない。

このほか、留学生国際交流ボランティア制度によって、ちょうど100名の登録があり、留学生が教育委員会、高校・中学・小学校、地域住民の国際交流活動、県および市町村の国際交流企画などの活動に参加できるようコーディネートしている。

(4) 学内外における留学生支援体制の整備

学内における留学生支援体制の整備として、留学生相談協議会を新たに設置し、留学生センターとともに留学生の相談・指導に関わる各部局の留学生専門教育教官、保健管理センター、ハラスメント相談窓口教員らとともに、現在の留学生の状況、本学の対応、問題解決に向けての協議を行った。日常的には、留学生相談業務の際の援助の呼びかけ、その他随時必要に応じた個人的な情報交換を行った。

学外では、広島地域留学生団体育成支援協議会において広島県留学生会の支援、広島地域の国際交流の推進、日本での就職についてのガイダンス、広島地域進学説明および相談会、留学生関連の諸問題の議論などを行っている。

2) 研究と開発活動

留学生全員を対象として、広島大学に対する満足度調査を年2回(前期・後期)実施している。この調査で、留学生の学習・生活の実態、異文化理解、異文化適応過程、日本語・英語の言語理解の実態、関連性および因果関係を明らかにする。日常的に行っている指導・カウンセリングを通して明らかになった留学生の学習・生活面での新たな問題あるいは事件については、それらに対処するための情報を定期的に収集し、分析した。これらの調査・研究をもとに適切なオリエンテーション、パンフレットおよびホームページを開発し、留学生に豊富な情報の提供と指導助言の質的な充実を図っている。

2.2 平成16年度前期の活動

3月上旬 16年度前期ボランティア・チューターの募集

日本語研修生の多くは日本語がまだ不十分であるにもかかわらず、有償のボランティアはつけられていない。そこで、国際交流ボランティアに呼びかけ、渡日後の生活支援をお願いした。ボランティア・チューターに求められる資質・能力の多様化していること、また活動が4月上旬と学年度の行事の多い時期であることなどから日本人学生の応募が不足しており、決定してもスケジュール調整が難しいという問題が毎年ある。現状ではメールで頻繁にやり取りを行うことで対応しているが、調整のための人と時間が足りない。

3月29日(月) 前期ボランティア・チューターのためのオリエンテーション

国際交流ボランティアの希望者から選ばれたボランティア・チューターのために、支援活動や留学生のプログラム等についてのオリエンテーションとマッチングを2時間に渡って行った。まず、留学生支援として行ってもらいたい活動として、外国人登録、銀行口座開設、国際交流会館の入居手続き、下宿探しなどの最低限求められる活動や日常生活を始めるにあたって必要な生活用品の調達やキャンパスおよび市内の案内などの活動について、また異文化コミュニケーションに関わる注意事項などについて説明した。ついで留学生が所属するプログラムの説明、留学生のスケジュールなどについて概要を説明した後、ボランティア・チューターの希望（渡日スケジュール、出身国、性別）によって、自分たちでどの留学生のチューターになるかを決めてもらった。一度の説明では理解できないことも多いが、出迎えて後に留学生に対して行うオリエンテーションと一緒に聞いてもらうことで、すべきことの確認を行っている。課題としては、留学生の日常のスケジュールに関する情報がうまく伝わっていないため、留学生と会う時間や週末の活動の調整が難しいことである。この点については、後期から改善した。

4月2日(金)～4月8日(木) 新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション

国際交流ボランティアのチューターと共に、大学の公用車を用いて、JR東広島駅で横断幕を持って留学生を迎えた。そのまま多くの留学生の宿舎となる国際交流会館に行き、その日のうちに国際交流会館の入居申込みのための基本的な書類の作成を行い、翌日から市役所で行う外国人登録や国民健康保険や銀行での口座開設などについての説明を行った。また、今後のスケジュールを配布し、重要な行事と場所を説明し、国際交流会館周辺の交通機関、病院、警察、市役所、スーパー、レストランなど、すぐに必要と思われる情報について基本的なオリエンテーションを行った。到着日当日に国際交流会館のガイドブックやキャンパスライフガイドブックの英語版の必要性が非常に高いにも関わらず、予算の関係で今年度も増刷することができなかった。

4月8日(木) 国際交流会館生活オリエンテーション

日本語研修生全員と一部の日本語・日本文化研修プログラムの留学生および他の国際交流会館に住んでいる留学生(留学生センター所属以外の留学生)に対して、国際交流会館に住むためのオリエンテーションを国際交流会館2階で行った。家賃の支払い、ゴミの出し方、電話の使用、郵便物の受け取り、長期の不在など、さまざまな生活上の留意点を詳細に説明した。なお、このオリエンテーションには、学术交流で広島大学に来ている研究者(国際交流会館C棟に居住)も含まれている。

4月8日(木) 全学留学生オリエンテーション

はじめて新しく広島大学へ留学してきた学生のために、日本語と英語によるオリエンテーションを行った。このオリエンテーションでは、留学生相談、ハラスメント相談、健康保険、アパートを借りる際の保証人制度、携帯電話の購入、一時帰国、アルバイト、車の購入、駐車証明など、大学の留学生支援体制および生活全般の説明を行った。

なお、防犯対策として広島大学留学生センターでは、『防犯を防ぐために(To Prevent Crimes)』(1999)という日本語と英語の対訳のパンフレットを作成しており、これを配布して、戸締り、泥棒、ひったくり、自転車泥棒、スリ、性犯罪防止対策などについて説明を行っている。

4月10日(土) 東広島市オリエンテーション・バスツアー

バスを1台借りて、東広島市のオリエンテーションのためのバスツアーを行った。広島大学の東広島地区のキャンパス全体や各種の施設、広島国際プラザ、東広島体育館、三つ城古墳、東広島中央図書館、西条警察署、西条駅、各種病院、リサイクルショップなどを回りながら、利用方法などについて説明した。これは、大学およびその周辺の環境を体験的に知ってもらうという企画のオリエンテーションである。

4月15日(木) 図書館施設に関するオリエンテーション

広島大学中央図書館の利用サービス企画と共同で、全学留学生を対象に図書館施設のオリエンテーションを行っている。まず、東広島キャンパス、霞キャンパス、東千田キャンパスの図書館施設の紹介から始まり、貸し出しの方法、他の図書館からの貸し出しとコピーサービス、図書館内でのコピーの方法、ベースメントの書庫の利用方法、AV施設の利用、閲覧のための個室の利用など、具体的に現場で説明を行った。

4月21日(水) 留学生との学長ミーティング

留学生が出身ごとに作っている団体・組織の会長および副会長あるいは大学の留学生支援体制の改善に対して関心の強い留学生15名が学長と自由に懇談するという機会を設けた。留学生の生の声を学長に聞いてもらえる機会としては、これは初めての試みであった。指導部門は、昨年度行った支援調査において質問した「学長への要望」として、①研究施設・設備の整備、②奨学金受給者選考の透明性の確保、③授業料免除受給者選考の透明性の確保、④カリキュラム改善、⑤英語の図書を報告していた。今回の学長とのミーティングでは、これらの問題に加えてさらなる問題、また具体的な事例を加えながら、留学生自身が直接学長に訴える機会になり、また学長がその場で今後の対応について方向性を示してくださり、非常に有意義な会となった。来年度以降も継続の年に1度開催する予定である。このミーティングを受けて、指導部門では日本語部門の協力を得て、留学生の家族に対する日本語クラスを開講にこぎつけ、また年に2回の国際交流会という留学生担当教職員、留学生・外国人研究員・教員、および日本人学生が議論したり、情報交換を行ったりする場を設け、着実に次の対応を行った。内容については、HPに公開している。

5月6日(木) 健康管理オリエンテーション

このオリエンテーションでは、日本の健康保険の仕組みについて説明した。留学生が病院で診察や治療を受けた場合、国民健康保険が、治療費の70パーセントを補助し、さらに、日本国際教育協会(AIEJ)の外国人留学生医療補助制度により、留学生負担分の30パーセントの内80パーセントまで補助することができる(詳細は、広島大学留学生センター、2000を参照)。その結果、留学生の負担分が、治療費のわずか6パーセントになることを説明した。その際、日本国際教育協会が発行している『留学生のための健康のしおり』(第2刷、1999年)を配布して、説明に利用している。また、東広島市にある主な病院および外国語が通じる病院についての一覧表を配布して、情報提供の徹底を計った。さらに、健康診断に必要な書類の記入を英語で説明し、保険証と一しょに携帯するよう指導した。

5月8日(土) 防災・消防オリエンテーション

春と秋の年2回、留学生がある程度生活に慣れてきて、来日後1ヵ月くらい経った時期に、賀茂広域消防署の協力を得て、国際交流会館で消防訓練を行っている。梯子車による7階からの脱出訓練、消火器操作訓練などの実地訓練を含んでおり、訓練を通して、留学生に防災の知識が身につくように努めている。ただし、このオリエンテーションは国際交流会館に居住する留学生のみであり、他の留学生には、学内で行われる防災訓練に参加を義務づける必要がある。

5月10日(月) 第1回 国際交流ボランティア・オリエンテーション

国際交流ボランティアに登録したい学生は、随時中矢の研究室を訪れ、そのたびに30分以上の説明と質疑応答を行い、登録するのに1時間弱かかっていた。その数は年間約100人であり、その他の業務活動を圧迫するため、年に3回のオリエンテーションと登録を実施することとした。オリエンテーションでは、制度の概要や注意事項について説明し、その後に学生が登録用紙に記入・提出することとした。

第1回オリエンテーションには、20人が参加し、全員が登録した。

5月13日(木) ホームページおよび文献検索(電子ジャーナルなどに)に関するオリエンテーション

今年度より、図書館が本格的に電子ジャーナルの導入を行っており、インターネット上での検索が今後の大学・大学院での学習に欠かせないものとなっていくと思われる。そこで、日本人の学部・大学院生に先がけて、留学生のためにインターネットを使った図書館の利用方法についてのオリエンテーションを行うことにした。内容は、広島大学所蔵の書籍・雑誌検索のための広島大学所蔵目録検索(OPAC)の利用方法、電子図書室の内容紹介、電子ジャーナルの検索および印刷、引用報告(citation report)の見方、インパクト指数(impact factor)の紹介と計算方法など、詳細の説明を行った。

5月18日(水) 広島地域留学生団体育成支援協議会

広島地域レベルでは、広島地域留学生団体育成支援協議会で広島地域の大学関係者などが集まって、留学生関連の問題、支援、交流、研修などを実施してきた。これは、モデル事業が終了した2001年度も継続している。ほぼ2カ月に1回くらいの割合で開催し、地域レベルでの留学生支援を行っている。

5月27日(木) 第1回 国際交流会

学長ミーティングを受けて、国際交流会を開催した。参加者は、留学生・外国人研究員・教員(65名)、日本人学生(10名)、留学生センター教職員(6名)、留学生専門教育教員等(2名)、留学交流グループ(4名)および国際部長である。国際交流会の目的は、第一に学生と大学教職員の情報交換であり、第二にネットワークの構築である。第1回目の活動内容は、①留学生と学長のミーティングの報告およびその後の成果、②留学生団体・グループによる活動紹介(中国人学友会、インドネシア留学生協会、エジプト留学生グループなど)、③グループディスカッション(学生活動・言語学習・研究室環境)である。非常に盛況で、有意義な会となった。活動内容はHPに公開した。

6月下旬 平成16年度前期 広島大学留学生支援調査の実施と対応

詳細は別紙参照のこと

7月1日(木) 国立大学留学生指導研究協議会

全国レベルでは、国立大学留学生指導研究協議会において、1年に2回の会議、同協議会のインターネットによる情報交換をおこなってきた。今回は、東京大学にて協議会が開かれ、留学生の就職支援についての報告・協議が行われた。

7月12日 第2回 国際交流ボランティア・オリエンテーション

74名の日本人学生が集まり、国際交流ボランティア制度について説明した後、全員が登録した。

7月26日(月) 第1回 留学生相談協議会

留学生センター長室(K304)にて、13時10分から15時30分まで行った。出席者は、二宮(国際部長)、多和田(留学生センター長)、吉田(留学交流グループ課長)、内野・佐々木(保健管理センター)、平川(IDEC)、山岡(医学部)、宿(経済学部)森元(工学研究科)、中矢(留学生センター)であり、以下のような協議・報告を行った。

協議題：

1. 各部局・センターにおける留学生支援状況の報告および今後の支援体制に関する提案
2. 留学生に対するハラスメント問題対応(FD)の計画・実施について(二宮)

報告事項：

1. 在留期間更新の申請について(留学生課)
2. 運転免許証について(留学生課)

8月2日(金) 後期ボランティア・チューターのためのオリエンテーション

夏休みの間に学生は帰省して、連絡が取りにくくなるため、後期は早めにチューターのオリエンテーションを開催した。内容は、前期と同じである。

8月5日(木) 岐阜大学留学生との交流会

岐阜大学から広島大学の留学生と交流会を持ちたいという要望があり、それを受けて、交流会を設定した。14時から15時まで教育学部にて岐阜大学留学生からの大学紹介や広島大学留学生からの自己紹介および大学紹介を通して交流を行い、15時からは二つのグループに分かれて西条酒蔵周辺にて散策を行った。岐阜大学からの留学生は80名、日本人学生5名、教職員3

名であり、広島大学留学生は 14 名の参加があった。他大学の留学生との交流は、広島大学留学生にとっても非常に興味深いものがあったようで、今でも交流を続けている留学生もおり、実りの多い交流会であった。

9月1日(水) 第14回全国産業教育フェア—東広島会場第三回運営委員会

東広島運動公園(アクアパーク)1階大会議室において、国際交流フォーラムおよび異文化交流イベントの部の委員会に15時40分から17時20分まで参加した。準備と当日会場の流れおよび各イベントにおける担当業務について協議を行った。

9月18,19日(土・日) 江田島国際交流キャンプ『国際交流ボランティアセミナー』

国立江田島青年の家と留学生センターの共催で、国際交流ボランティアセミナーを開催した。この目的は、「外国人や日本人がお互いの交流を通し、単に世界の国々に関する知識を増やすのではなく、異文化を認め尊重し合う異文化コミュニケーション能力を身に付ける」ことであり、その目的に沿った活動内容を開発・実施した。広島大学からは、10人の留学生を引率し、日本人青年は26人、中国人研修生14人が参加した。初日前半は広島大学留学生からの自国紹介と日本での経験についてパネルディスカッションを行い、次いで中矢が講師として異文化コミュニケーション能力開発ゲームを行った。翌日は、瀬戸内海でカッター体験をし、午後はグループディスカッションとして「多文化社会における“共生”」について話し合いと発表を行った。活動についてはHPで公開している。

2.2 平成16年度後期の活動

10月5日(火)～10月8日(金) 新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション

後期の留学生には、ブラジルからの留学生で下半身不随の学生がおり、その学生の住居環境整備、生活適応支援制度利用のために学内外での環境づくりに多くの時間をかけた。市役所、病院、ヘルパー派遣業者との調整のため、10月中は週2,3回の割合での対応を行った。また、大学への送迎が必要であり、国際部およびチューターと連携して12月末まで行った。

10月8日(金) 国際交流会館生活オリエンテーション

内容は、前期と同様。

10月8日(金) 全学留学生オリエンテーション

後期の全学オリエンテーションの工夫としては、より徹底を図るため、全部局に対してオリ

エンターションのポイント集を作成して配布し、いかに全学オリエンテーションが必要であるかを説明した。

10月9日(土) 東広島市オリエンテーション・バスツアー

前期と同様の行程で行った。

10月13日(水) 第1回 留学生を事例とするアカデミックハラスメントに関するFD

本部5F会議室にて、12時30分～13時10分までFDを行った。担当者は、多和田センター長、二宮国際部長、吉田課長、児玉(講話)、玉岡(報告)、中矢(報告)であった。参加者は、センターから恒松、深見、その他教職員10名程度であった。参加者数は少ないものの、学内で留学生を事例とするアカデミックハラスメントに相当すると考えられる事例について報告を行うことができ、またそれに対する対応についてハラスメント委員長からの説明を受けることができ、非常に重要なFDを開催することができた。

10月13日(水) 第14回全国産業教育フェア会議

賀茂高等学校にて、東広島会場全体の最終打合せを行った(15:40～17:20)。

10月15日(木) 第2回 国際交流ボランティア・オリエンテーション

34人の参加者があり、全員が登録した。

10月21日(木) 図書館施設に関するオリエンテーション(中央図書館)

内容は前期を参照。

10月22日(金) 第14回全国産業教育フェア会議

西条農業高等学校にて、最終打合せを行った(15時40分～17時10分)。

10月30日(土) 第14回全国産業教育フェア・リハーサル

10月31日(日) 国際交流フォーラム・異文化交流イベント開催

国際交流フォーラムでは、朴さんが韓国と日本についてパネルディスカッションにて発表した。

異文化交流イベントでは、バンブーダンス(フィリピンチーム:・吉田課長担当)、伝統舞踊(インドネシアチーム・中矢担当)、伝統衣装の着付け(スリランカ留学生)を行った。その他、日本語研究コースの留学生が6名参加した。

11月14日(木) ホームページおよび文献検索(電子ジャーナルなど)に関するオリエンテーション(中央図書館)

内容は前期を参照.

11月6日(土) 防災訓練(国際交流会館居住者対象)

内容は前期を参照.

11月18日(木) 健康管理オリエンテーション

内容は前期を参照.

11月20日(土) 留学生全学バスツアー(10時~17時30分)

国際部と協力して、留学生およびその家族に呼びかけ、しまなみ海道、瀬戸田町でのミカン狩り、平山美術館、耕三寺への全学バスツアーを行った。これには、国際交流ボランティア学生も11名が手伝ってくれた。学内教職員、留学生およびその家族が1日中ともにツアーを楽しみ、有意義なものとなった。

11月24日(水) 第2回 留学生を事例とするアカデミックハラスメントに関するFD

本部5F会議室にて、第二回目のFDを開催した(12時30分~13時10分)。担当者は、多和田センター長、二宮国際部長、吉田課長、横山ハラスメント相談員(講話)、玉岡(報告)、中矢(報告)であり、参加者は教職員15名程度であった。

11月29日(金) 広島大学学長主催・広島大学国際交流懇親会

恒例の学長主催の懇親会を午後6時から8時までホテルグランヴィア広島・4階・悠久で行った。今年度は、外国人留学生ばかりでなく、研究者交流も含んで「広島大学国際交流懇親会」として実施した。学長の挨拶から、来賓紹介、来賓代表挨拶、留学生代表挨拶、外国人研究者代表挨拶、食事・歓談、アトラクションというプログラムで実施した。また、今年度は留学生の子供達のために、キッズ・コーナーも設定した。アトラクションでは、広島大学の学生による古武道の披露、広島大学短期留学プログラム HUSA (Hiroshima University Study Abroad Program)の担当の恒松先生と HUSA の学生による演奏、広島大学学生による神楽「鍾馗(しょうき)」、留学生による東南アジアの伝統的ダンス(フィリピン・タイ・インドネシア)を行った。

12月6日(月) 国際交流ボランティア・オリエンテーション 12:30-13:10

ボランティア制度についてのオリエンテーションを行い、その後、9名が新規登録を行った。

1月15,16日 (土・日) 国際交流キャンプ (江田島)

9月に開催した国際交流ボランティアセミナーに引き続き、国際交流キャンプを行った。引率者は、中川、深見、中矢で、広島大学留学生26名が参加した。全体で、100名の参加者があり、ゲーム、太鼓実演、野外炊事、七宝焼きなどを行い、国際交流、日本文化理解を深めた。

1月25日(火)および3月16日(水) 広島地域留学生団体育成支援協議会

協議会の趣旨などは前期を参照。

2月17日(木) 第2回 国際交流会の開催

学資会館レセプションホールにて、第二回国際交流会を開催した(14:00-17:30)。参加者は、留学生および外国人研究員・教員(22人)、日本人学生(18人)、教職員(8人:センターからは多和田、玉岡、石原、中矢)であった。活動内容は、①国際交流サークル活動などの紹介、②ゲーム(留学生主導)、③討論会(安全ネットワーク、異文化理解、就職活動、研究活動について)であり、有意義な情報交換を行った。活動については、HPに掲載している。

3月9日(月) 第2回留学生相談協議会

留学生センター長室(K304)にて、第二回留学生相談協議会を行った(13:30~15:30)。出席者(敬称略)は、多和田(留学生センター長)、二宮(国際部長)、吉田(留学交流グループ課長)、山崎(留学交流グループ専門職員)、河本、宿、玉岡、中矢、山岡、平谷、森川、森元、横山(ハラスメント相談室)と非常に多く、以下のような協議内容について、活発な意見交換を行うことができた。

協議内容:

1. 文部科学省「外国人留学生の適切な受け入れについて(通知)」に対する本学の対応について
2. 留学生に関わるハラスメント対応について
3. 留学生の防災システムについて
4. 帰国留学生への対応について

3月30日(水) 2005年前期ボランティアチューター・オリエンテーション

留学生センターK308にて来年度のチューターオリエンテーションを行った(13:00~14:00)。

参考文献

- 中央教育審議会『新たな留学生政策の展開について（答申）－留学生交流の拡大と質の向上を目指して』平成15年12月16日。
- 岡益巳・玉岡賀津雄（2001）. 留学生センターからみた留学生専門教育教官との連携について. *留学生交流・指導研究*, 国立大学留学生指導研究協議会.
- 広島県警察本部広報課（未記入）. *県民のまもりー広島の警察*. 広島：広島県警察本部広報課.
- 広島大学留学生センター（1999）. *犯罪を防ぐために(To Prevent Crimes)* 東広島：広島大学留学生センター
- 広島大学留学生センター（2000）. *広島大学留学生キャンパスライフ・ガイド*. 東広島：広島大学留学生センター
- 日本国際教育協会（1999, 第2刷）. *留学生のための健康のしおり*. 東京：日本国際教育協会事業部学生生活課保健係.
- 二宮皓・玉岡賀津雄・中矢礼美（2001）. *平成13年度前期広島大学留学生の学習と生活に対する満足度調査*. 平成13年度第2回留学生センター運営委員会および第2回留学生センター教官・留学生専門教育教官等連絡会合同会議, 東広島地区(事務局5F1会議室)・広島地区(歯学部小会議室). 平成13年6月29日(金)15:00~17:00.
- 玉岡賀津雄（1999a）. 留学生指導部門：「対処」型の支援活動から「予防」型の交流活動への転換. *留学生教育*, 3, 112-121.
- 玉岡賀津雄（1999b）. 国際交流ボランティア制度の導入による留学生の指導・助言活動の新しい展開. *1998年度広島大学留学生センター講演・討論会報告書「二十一世紀の留学生教育に向けて」* (pp. 29-37). 東広島：広島大学留学生センター.
- 玉岡賀津雄（2004）. これからの留学生宿舎を考えるー広島地区の全留学生を対象とした調査データより. *留学交流*, 16(7), 2-5.
- 玉岡賀津雄・金田智子（2000）. 留学生指導部門：各種オリエンテーションの充実と平成11年度指導. *留学生教育*, 4, 99-109.
- 玉岡賀津雄・堀田泰司・金田智子・石原淳也（2001）. *学生チューターハンドブック*. 東広島：広島大学留学生センター.
- Tamaoka, K., Ninomiya, A., & Nakaya, A. (2003). What makes international students satisfied with a Japanese university?,
- 二宮皓・中矢礼美（2003）『留学生施策の戦略的方策に関する研究－教員研修留学生プログラムに関する調査研究』（課題番号 13800004）平成13－15年度科学研究費補助金（特別研究促進費（1））.

○二宮皓・中矢礼美（2004）「留学生調査にみるわが国の大学院受け入れ態勢の現実と課題—大学院留学生調査と教員調査の自由記述分析を通して—」広島大学留学生センター紀要。

2004 年度前期広島大学留学生支援調査の報告

調査対象および回答者の属性

今回の調査の全回答者数は、199 名であった。学籍別では、大学院生が 141 名、学部生が 23 名、研究生が 27 名、その他が 5 名であった。1 名の留学生は記述がなかった。出身国・地域は、中国が 69 名、韓国が 21 名、台湾が 6 名、マレーシアが 9 名、インドネシアが 16 名、その他が 75 名、無回答が 3 名であった。女性が 85 名で、男性は、112 名、無回答 2 名であった。また、私費の留学生が 95 名、国費の留学生が 99 名で、未記入が 5 名であった。また、理系が 92 名、文系が 75 名、その他が 28 名、無回答が 4 名であった。回答した留学生の平均年齢は、29 歳 2 カ月で、標準偏差は 4 歳 11 カ月であった。最も若い留学生は、19 歳で、最も年長は 41 歳であった。また、広島大学での在籍年数は、平均で 2 年 1 ヶ月、標準偏差が 1 年 7 ヶ月であった。

質問紙の内容

質問紙には、留学生の属性として、性別、年齢、出身国・地域、学籍、所属、私費・公費、専門、在籍年数、使用言語などを記入する欄を設けた。質問は、留学生の満足度指標として適切であると思われる項目について、8 種類に絞って、「全くそう思わない」が -2 点、「そう思わない」が -1 点、「どちらとも言えない」が 0 点、「そう思う」が 1 点、「とてもそう思う」が 2 点で集計した。この配点であれば、マイナスが不満で、プラスが満足を示すので、分かりやすい。また、総合的に判断して、広島大学での学習と生活および大学の授業や研究に満足しているかどうかを同様に判断してもらった。したがって、満足度の指標は 10 種類の質問項目からなる。

手続き

各留学生の名前を記入した封筒に、質問紙と学内便による返信用の封筒を入れて、留学生の管理部局から配布していただいた。また、各管理部局には、質問紙の回答箱を用意して、入れられるようにした。さらに、返信用の封筒の表に留学生センター長の名前が印刷されていたので、学内便でも返送が可能であった。

論文および指導教官との会話での使用言語

使用言語については、論文で使用する言語は、日本語が 80 名で、40.2 パーセント、英語が 109 名で 54.8 パーセントであった。その他の回答は 2 名で、回答しなかった者が 8 名であった。回答者からみると、論文を英語で書く留学生が過半数を少し上回っていた。また、指導教官との会話では、日本語を使用する留学生が 121 名で 60.8 パーセント、英語が 68 名で 34.2 パーセントとなった。その他および無回答が 10 名であった。指導教官との会話は、論文の場合と逆転する結果であった。つまり、論文は英語であっても、指導教官とは日本語でコミュニケーション

ンを計っていることもあることが分かる。

満足度指標および総合的満足度指標の概要

10種類の質問について、-2点から2点までの連続変数であると仮定して、平均、標準偏差を算出した。得点は、表1に示したとおりである。すべての満足度指標の平均において、マイナスを示した指標はなかった。全体的にみて、留学生が広島大学での学習、研究、生活に満足していることを示している。八つの満足度指標のうち、プラスで1点以上だったのは、二つの指標であり、もっとも高いのが「指導教官の研究に対する助言」で、これは+1.26という高い数値であった。広島大学の留学生は、大学院生が多数を占めている。その状況で、留学生が指導教官の研究指導に対して高い満足度を示していた。このことは、広島大学が学術的に高いレベルの大学を目指していることを考えると、高く評価できよう。次に、「大学図書館が利用」であり、+1.01であった。広島大学図書館は、利用者のことを考慮して、開館時間の延長、Web文献検索の充実などさまざまな便宜を図っており、留学生の満足度にもその効果が表れているのであろう。ただ、「カリキュラムの適切性」に関する満足度がプラスではあるが、+0.45と比較的低く、留学生に対する教育内容および使用言語などについての配慮が、今後の課題となるであろう。

本調査では、総合的満足度指標として、授業・研究および日常生活という2つの視点から満足度を聞いた。その結果、授業・研究に対する全体的な満足度が+0.86で、広島大学の授業や研究について、留学生がある程度高い評価を下していることが分かる。また、日常生活についても、決して低くはなく、+0.76であり、ある程度高い満足度を示していた。

研究科ごとの満足度指標比較

学部所属の留学生の回答者数が少ないので満足度指標の平均は算出していない。また、大学院研究科およびセンターで、留学生数が10名以上の場合にのみ、満足度指標の平均を表2に示した。灰色のセルは、満足度が平均で+1.00以上を示しており、良い評価と考えてよい。白いセルが目立つほど、評価は低いことになる。

表1 2004年前期の満足度指標の平均と標準偏差

#	満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
1	指導教官の研究に対する指導	196	1.26	0.90
2	留学生の研究に関する知識	196	0.69	0.98
3	研究室の人達の助言	194	0.71	0.97
4	カリキュラムの適切性	194	0.45	0.88
5	授業の内容の理解	193	0.49	0.95
6	大学図書館の利用	199	1.01	0.87
7	日本での生活を楽んでいる	197	0.76	1.01
8	留学生センターの情報提供	199	0.61	0.95
#	総合満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
9	授業と研究に対する総合的満足	199	0.86	0.87
10	日常生活に対する総合的満足	199	0.72	0.86

注1: 1から10までの満足度指標は、2から-2までの変数である。

注2: 灰色のセルは、1.00以上の満足度を示す。

表2 2004年度前期の留学生の所属する大学院ごとの満足度指標の平均

研究科・センター	留学生回答者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
文学研究科	10	1.60	0.20	1.30	0.30	0.60	1.10	0.20	0.30	0.70	0.60	0.69
教育学研究科	24	1.42	0.50	0.71	0.63	0.75	1.29	0.87	0.50	0.96	0.96	0.86
社会科学研究科	13	1.54	1.00	0.69	0.54	0.92	0.92	0.69	0.15	0.85	0.54	0.78
先端物質科学研究科	10	1.30	1.00	0.70	0.30	-0.10	0.60	0.60	0.80	0.70	0.80	0.67
医歯薬学総合研究科	20	1.15	0.85	0.50	0.42	0.11	0.95	0.80	0.55	0.85	0.60	0.68
工学研究科	22	1.50	1.18	0.82	0.57	0.11	1.23	0.82	0.55	0.95	0.59	0.83
生物園科学研究科	13	1.69	1.15	1.15	0.69	0.46	0.92	0.85	0.77	0.85	0.69	0.92
国際協力研究科	24	0.96	0.58	0.25	0.13	0.63	0.68	0.56	0.36	0.60	0.52	0.53

注1: 1から10までは満足度指標で, 2から-2までの変数である。灰色のセルは, 1.00以上の満足度を示す。

注2: 満足度指標によって回答者数が異なるが, 上記の研究科および留學生センターの集計は大学院生141名(全体の70.9%)の集計である。

注3: 留學生の回答者数が10名以下の研究科およびセンターは表に含んでいない。

2004 年前期留学生支援調査 自由記述に書かれた個別問題に対する対応

自由記述回答者は29名であり、そのうち20名が対応を求めて連絡先を記入していた。20名全員に対応を行うとともに、学内において問題の解決に関係する部局・事務に対しても報告と対応の依頼を行った。

No.	学籍	私費・国費	問題	自由記述	対応策
1	大学院生	私費	授業料免除	Please let me know if I could still apply for the 'exemption of tuition' fees. When is the right time to apply for this privilege? I'm a private student now after my mombusho scholarship expired last March 31st 2004. Though I was given a private scholarship this year, my monthly stipend is just enough for my daily needs. As of now, my professor is giving me some RA in the laboratory to compensate my expenses for the tuition. But if I could get an 'exception for tuition' this would make my study life in Hiroshima University better and happier. Actually, I am deeply grateful to my professor and to your office for wholeheartedly supporting foreign students like me, in our academic endeavours. Thank you very much.	2004/8/20 のメールにて、オーバードクターは免除できないことを説明。納得の返信あり。
2	大学院生	国費	学会参加費用	Participating academic conferences: All know graduate students must attend academic conferences to share and discuss their research findings. But we are away from this, because of no financial assistance for the participation of conferences. At least we hope to receive financial assistance to cover the travel expenses. As we all know, travelling to abroad conferences is not so easy in financial way. In this case we are always reluctant to apply for academic conferences and this has direct impact on our research quality. We will be grateful if you can pay attention on the matter immediately	2004/8/20 のメールにて、大学にはそのような援助制度はないが、他機関からの助成金獲得を試みるよう助言。
3	大学院生	国費	カリキュラム	Concerning my research, I have no problems. Despite of I'm not supposed to have shared it yet, I did it already. In my laboratory, I feel just as if I were in ○○, and all my colleagues are gentle and kind. Concerning the Japanese language classes,	直接本人と話し合い。その後継続的

				I feel as I would learn more and fast. Since the day I arrived Higashi Hiroshima, I have telling the teachers that I have studies the Japanese language for six years in 〇〇, but in spite of it, I was placed in a beginners class, in which I am feeling just as I am speding my time. I really wan to grow up and make more efforts in my Japanese langauge knowledge and skills but doing in this way, is quite impossible because I have few time learn new things and practice what I already have learned. But I really think that this intensive course works for whom those are beginners in this spectacular language	に状況 を聞く。
4	大学院生	国費	カリキュ ラム	The classes are not properly designed for international students	2004/8/ 20 のメ イルに て、担 当教員 ある いは 学部 に要 請す るこ とを 提案。
5	大学院生	国費	日本語学 習、日本 文化適応	The only problem I have is language. I cannot speak and understand Japanese well. So that in learning process this problem makes me difficult to understand and follow the scientific discussion and lecture. The scientific discussion and lecture hold in Japanese. I just afraid if I cannot understand Japanese in the near future. This prople gives a limitation for me to get knowlege as much as possible and makes me loose my information	8月20 日、メ イルに て情 報提 供お よび 励ま し。
6	大学院生	国費	英語での 情報提供	According to university news or graduate schools news, such as modules, magazines and others, it will be useful if we have English versions.	国際部 に要望 を伝え る。そ の後、 メイル にて留 学生 には状 況説明。

7	研究生	私費	英語版パソコン、日本人の英語能力、交流機会	<p>I think there should be some provision for English lap top computer for foreign students. If university could provide some lap tops at subsidized rates or used laptop then it would be really good and affordable. It has been very difficult for me to find a cheap laptop with English OS here in Hiroshima/Saijo city. University should also encourage Japanese students to learn and talk in English. There should be more interactions between Japanese and international students. I think there should be some weekend parties etc. so that this can be encouraged. It should be like friendly informal party where everyone can simply open their hearts out and know each other well.</p>	<p>8月23日メールにて情報提供と自らの行動の振り返りも勧めらる。</p>
8	大学院生	国費	英語のパソコン	<p>I could not have opportunity to learn computing before coming to Japan. But computer is very much needed for my living, learning and experimenting. But here I don't have any computer for my own work. For combined uses there are but those are also in Japanese. So, a computer preferably with English software is very much needed for me. Even if it is not of new it will do. Actually, I want to buy one but I don't have much money at this moment. Thanks for sharing my problem.</p>	<p>8月23日メールにて情報提供。9月返信あり。その後、会話パートナー要請があり、11月に会話パートナーをマッチング。双方から順調との報告あり。</p>
9	大学院生	私費	日本語学習、日本文化適応	<p>I think I like studying in ○○ and daily life now. But I think I have some problems with Japanese language and I think I don't know clearly on Japanese culture. If all of you any suggestion, please suggest me. Thank you for your kindness.</p>	<p>8月23日のメールにて、情報提供、異文化適応の説明、励まし。返信あり。</p>

10	大学院生	私費	奨学金、 授業料免除	<p>Now I am studying as a private student. I don't have a scholarship yet. This semester I have to pay entrance fee as well as tuition fee (half) Altogether I have to pay 40 man. Since I have many classes, this semester and most of my time is spent in studying and preparing for the classes, I don't have time to do a part time job although one may think that I can get a job easily as I know both English and Japanese well. The problem is that I hardly have time to do a part time job. To study in private is very difficult financially for a student like me who is from a developing country. My family cannot afford my expenses. Now, I fear, whether this financial tension will hamper my academic field. If possible, I want all the foreign students, esp. those who have financial problem, should get a scholarship and tuition fee exempting. Priorities should be given to those who are really in need.</p>	<p>8月23日のメールにて、他の多くの私費留生の状況も伝え、励まし。</p>
11	大学院生	国費	研究期間の短さ、 奨学金の延長願い	<p>I have three years of contract of my scholarship. I started doing the 'actual/real' research work for my thesis after 10 months from the time I enter this university. I have spent another 12 months for the 'actual/real' research work. Then pre-paperwork, I consider the first 10 months as a 'problem' because it is 'almost' wasteful, no output. If I have just used this 10 months directly related to my research, then I have more time to 'THINK' in the next months, and I would have done a good output. My professor and supervisors are good, only the time allotment for my research is very limited. Finally a 2 year PhD work (actually 3 years in paper contract) is a 'shock.' I hope the Japanese government will consider extending my scholarship even for just 6 months. Now I am still about to write a paper for publication as a requirement. But the acceptance of the paper don't have a definite internal, 6 months or 1 year. If I am lucky a 3 month reply from the referee journal will be a favourable one, but if not then it will be very sad because my scholarship ends on March 31st 2005. I will have to think about some job to support my living and the university fees. The worst case is to go home.</p>	<p>メールにて制度の説明と励まし。</p>

12	大学院生	国費	家族、経済支援	Scholarship is not sufficient for students with families. Many financial helps such as 9000 for rent a house or student loan have ceased for Monbusho students. Jpb permit is only 28 hours a week. But most of the companies need workers of at least 46 hours per week. Besides most jobs with no command of Japanese is impossible.	8月29日、メールにて制度の説明と励まし。9月にメール開封通知のみ。
13	大学院生	国費	会話パートナー、アルバイト、日本人学生との交流会	I would like to improve my Japanese. I need a pair lesson if you can introduce some Japanese students to me. I would be nice. Sometimes I need a part time job. Please organize more activities to promote international exchange between foreign students and Japanese students.	会話パートナーをマッチング9月6日。9月9日返信あり。
14	大学院生	私費	英語での情報提供、家族・経済支援(奨学金)	All the notices, forms and publications should be made in both Japanese and English. Nothing can be done without the help of Japanese. It is troublesome. I think those who live with their families, should be allowed to apply more than one scholarship. Forms filled up in English should be accepted to all offices. Then it might overcome difficulty.	国際部に要望を伝える。その後、メールにて留学生には状況説明。
15	大学院生	私費	経済的問題	私はこの4月から広島大学大学院理学研究科生物科学科専攻の博士課程前期に進学しました。ただし進学に際し、その諸費用のことで問題が生じています。費用については中国政府がこれまで勤務していた新疆大学からのサポートを期待し、申請しておりましたが、まったくサポートを受けることが出来ませんでした。私の出身地である新疆ウイグル自治区は中国の中でも経済的に貧しい地域に属し、妻の今収入では家族を養うことも困難です。そのため、入学金の免除を申請させていただいたが、結果は不許可になった。奨学金を申請させていただいたが、それも残念ながら当てられなかった。今問題なのは生活費ですね！	8月19日のメールにて、情報提供、励まし。返信あり。

16	学部生	私費	経済的問題	どうもありがとうございます。私は今〇〇学部で勉強しています。主人は今年4月から日本に来て、今〇〇専門学校で日本語を勉強しています。二人とも留学して、学費と生活費がやっぱり一番の問題点です。そして、3歳の娘は今中国でお母さんが面倒を見てくれています。お母さんは体が弱いので、また子どもとずっと離れてしまうと、子どもにマイナス影響を与える恐れがあります。だから早く子どもを連れて日本と一緒に過ごしたいと思います。今経済的問題でなかなか子どもと一緒に生活するのが難しいです。奨学金を頂いたら全部の難問が解けると思います。どうぞよろしくお願いします。	8月1日のメールにて励ましと制度説明、他の留学生の状況説明など。
17	大学院生	私費	経済的問題(奨学金情報が欲しい)	私費留学と言うのはあまいものではないと思います。しっかり勉強して将来役に立つ人になるための心構えはちゃんと出ています。今大学院での勉強と生活にかかる資金のために一生懸命アルバイトをしていますが、そのために勉強に使える時間が減ってしまうのがすごく惜しいです。がんばって奨学金をもらおうとしてますが、それについてよく知りませんので、いろいろ助言をお願いいたします。よろしく申し上げます。	8月2日のメールにて、励まし。
18	研究生	私費	研究生でもJRの定期券が欲しい	外国人研究生がJRの定期券を買えないので困ります。もし、よろしければ、買い資格がほしがっている。	8月1日のメールにて、制度説明。
19	大学院生	私費	日本語での学習	日本の文献を読むことと、日本語の論文を書くことにはかなり時間をかけています。日本の学生より倍以上にがんばらないといけません。	8月10日のメールにて、励まし。
20	研究生	国費	住居探し	今年9月に会館を出なければいけないのですが、ほかのりょうに入れる可能性が非常に低いので心配です。留学生センターからおたずねしましたが、サンスクエアしかないということでした。アパートは借りたくないのに入れるところがあれば情報が欲しいです。池の上は10月は応募がないそうです。勝手なことを言って申し訳ありません。また字もきたなくてすみません。どうぞよろしく申し上げます。	7月に直接本人と話し合い、情報提供を行った。

以下、無記名のもの

No.	問題	記述内容
1	日本語、自動車免許	Language is still the main barrier of communication. Japanese driving license - difficult to pass driving test even though already a licence holder for many years.
2	宿舎	I live in Ikenoure Gakusee Shukusha and I believe there has been quite strong discrimination against myself and my friends by the caretaker/guard. We are now aware that boys are not allowed into the girls dorm at all, (which I think is very sad!) However, a few months ago 6 of us were in the girls dorm - 4 girls and 2 boys. It was 8.30 pm and we were having an enjoyable dinner in the kitchen. The guard then came around and started shouting and speaking very rudely to us saying that the boys had to leave immediately. I think it was extremely unfair of him to act in such a manner especially as we regularly see Japanese boys in the girls' dorms. I don't think anything can really be done now and but I think he should be made aware that his attitude towards foreign students is bordering on racism. Furthermore, I know this is Japan and we should be learning Japanese but many of us don't understand written Japanese so I think that any important signs around the dormitory should be in English, for example on the rubbish bins. Also kitchens are cleaned every week which is great but the communal fridges have been touched and they are quite disgusting. Other than that everything is great.
3	ボランティア活動参加	I'd like to be volunteer but I'll come back to China in Oct. I think if the table list in right page can be sent out to us early, may be lots of foreign students will enjoy it. And thanks for the job that all professors in international centre done.
4	日本語	No problem as such, my only reason for not thinking 'strongly agree' for all is that I often occur a language barrier because my Japanese is not good.

<p>5</p>	<p>医療研修システム (留学生の実習問題)</p>	<p>As per WHO (World Health Organization) Japan has one of the best health care delivery system of the world. But one of the sad point is foreign medical doctors are researchers here only even in the clinical department. If they do not get opportunity to learn clinical management like the Japanese doctors they will not be able to serve their own country except own enjoyment. Because country like us do not have highly standard expensive research facilities like here. Fortunately I have some scope due to my very much generous professor. But maximum foreing doctors do not have. I regret the authority through you to allow foreign doctors to get clinical training side by side their research advantages are many: 1). For example, in clinical haematology, in Bangladesh , still no Bone Marrow Transplantation. Many babies die of Thalanaemia, leukemia etc due to lack of their facilities. If I can learn this well from here,I can tremendously serve my nation by introducing this therapy as well as by my research experience to save many innocent lives. 2).As I read the objective of this university I feel this will more serve the objective of this university and attitude of Japanese government and people to help other nations. If the country like Japan do not teach us from where we can learn? 3). Nowadays Japanese doctors especially younger doctors are becoming more expensive investigation depended which is not at all standard and sometimes could be dangerous for the patient. But we, the doctors must have to depend on history taking and clinical examination due to expense and sometimes lack of facilities. I feel exchange of ideas will be very helpful for both of us. 4). Due to tourism, international trade and commerce, multicultural marriage ect many disease spread very quickly. for example SARS. Another example is due to global warming there is always worry of emergence of tropical diseases like Malaria Kala-azar etc in Japan and Europe. Of course, exchange of ideas will be helpful in that context also. In our country foreign medical doctors can work in terms of technology transfer and learning. so if the foreign medical doctors are allowed to work for training and learning after they finish language course, under the supervision of Japanese consultant doctor. I feel this will be no problem for the pateint or regarding income rather helpful sometimes as I have stated. If no trouble of you, I shall happy to see your reply stating your opinion and thinking. Thanking you in anticipation.</p>
<p>6</p>	<p>図書館資料 検索支援</p>	<p>I found that I still have a little problem of using library and searching books through OPAC, Hiroshima library on line because there are not many books related to my topics. It would be better if any staff working there can provide me sometimes or expaination when I can't find where exactly those books or journals are.</p>

7	宿舎	学校に近いところで部屋を探したいです。
8	子ども支援	子どもがいる留学生に何か支援をしていただければありがたいです。例えば、生活指南などの panphlet です。
9	経済的問題	<p>私費留学生として今年 4 月から大学院生になった私の授業料半免は私の生活上で大きい負担になりました。つまり 4 月から 6 月までの間に私は 41 万円用意しなければならぬ現状になっております。入学料金だけならお金を出しても生活できますが、授業料の 13 万円まで出すと私は残りの奨学金 4 万円ぐらいに金土日あわせて 12 時間しかアルバイトが出来ない。(このお金で 1 ヶ月の生活が足りません。しかも、アルバイトの時間をだんだん減らしていきかかったのですが)。つまりわずかなお金で生活しなければなりません。もし病気があってもなにか急にお金がある場合はどうすればいいでしょうか？本当に困ります。私が留学生センターの先生達にお願いしたいのは、次からもこんなお金がない私費留学生にできるだけ経済方面の負担をかけないようにがんばって支援していただければ一番いいことだと思います。留学生は金持ちではありません。日本に来たのは勉強のために来たのです。ほぼ毎日アルバイトをして高い入学量、授業料を払いにきたものではありません。こんな××料のためアルバイトに疲れて勉強ができない学生はいっぱいあります。留学生の犯罪率が高くなっているのも留学生にお金がないからではないでしょうか？</p>

2004年度後期広島大学留学生支援調査の報告

調査対象および回答者の属性

今回の調査の全回答者数は、217名であった。これは、2004年11月付けの留学生数が800名であるので、27.13パーセントの回答率である。学籍別では、大学院生が124名、学部生が24名、研究生が46名、その他が18名であった。5名の留学生は記述がなかった。出身国・地域は、中国が77名、韓国が22名、台湾が6名、マレーシアが10名、インドネシアが13名、その他が87名、無回答が1名であった。女性が95名で、男性は、118名、無回答4名であった。また、私費の留学生が95名、国費の留学生が113名で、未記入が9名であった。また、理系が92名、文系が55名、その他が47名、無回答が23名であった。回答した留学生の平均年齢は、29歳0カ月で、標準偏差は5歳6カ月であった。最も若い留学生は、19歳で、最も年長は43歳であった。また、広島大学での在籍年数は、平均で2年0ヶ月、標準偏差が1年6ヶ月であった。

質問紙の内容（2004年前期と同じ）

質問紙には、留学生の属性として、性別、年齢、出身国・地域、学籍、所属、私費・公費、専門、在籍年数、使用言語などを記入する欄を設けた。質問は、留学生の満足度指標として適切であると思われる項目について、8種類に絞って、「全くそう思わない」が-2点、「そう思わない」が-1点、「どちらとも言えない」が0点、「そう思う」が1点、「とてもそう思う」が2点で集計した。この配点であれば、マイナスが不満で、プラスが満足を示すので、分かりやすい。また、総合的に判断して、広島大学での学習と生活および大学の授業や研究に満足しているかどうかを同様に判断してもらった。したがって、満足度の指標は10種類の質問項目からなる。

手続き（2004年前期と同じ）

各留学生の名前を記入した封筒に、質問紙と学内便による返信用の封筒を入れて、留学生の管理部局から配布していただいた。また、各管理部局には、質問紙の回答箱を用意して、入れられるようにした。さらに、返信用の封筒の表に留学生センター長の名前が印刷されていたので、学内便でも返送が可能であった。

論文および指導教官との会話での使用言語

使用言語については、論文で使用する言語は、日本語が81名で、37.3パーセント、英語が120名で55.3パーセントであった。その他の回答は14名で、回答しなかった者が2名であった。回答者からみると、論文を英語で書く留学生が過半数を上回っていた。一方、指導教官との会話では、日本語を使用する留学生が124名で57.1.8パーセント、英語が79名で36.4パー

セントとなった。その他が11名で、無回答が3名であった。指導教官との会話は、論文の場合と逆転する結果であった。これは、2004年前期と同じ傾向であるが、やや英語を使う比率が後期の方が高くなっている。

満足度指標および総合的満足度指標の概要

10種類の質問について、-2点から+2点までの連続変数であると仮定して、平均、標準偏差を算出した。得点は、表1に示したとおりである。すべての満足度指標の平均において、マイナスを示した指標はなかった。全体的にみて、留学生が広島大学での学習、研究、生活に満足していることを示している。八つの満足度指標のうち、プラスで1点以上だったのは、二つの指標であり、もっとも高いのが「指導教官の研究に対する助言」で、これは+1.23という高い数値であった。広島大学の留学生は、大学院生が多数を占めている。その状況で、留学生が指導教官の研究指導に対して高い満足度を示していた。このことは、広島大学が学術的に高いレベルの大学を目指していることを考えると、高く評価できよう。2004年前期は、「大学図書館が利用」が+1.00を越えていたが、今回は+0.97で、わずかにおよばなかった。しかし、この数値はかなり高い満足度を示しており、広島大学図書館は、利用者ニーズに合わせてさまざまな業務拡大を行っており、留学生の満足度にもその効果が表れているのであろう。ただ、「授業内容の理解度」が+0.50で、「カリキュラムの適切性」が+0.58と、満足度がプラスではあるが、普通くらいに留まっている。今後、留学生のための授業理解の工夫や、カリキュラムの改善が必要であろう。

本調査では、総合的満足度指標として、授業・研究および日常生活という2つの視点から満足度を聞いた。その結果、授業・研究に対する全体的な満足度が2004年前期の+0.86から、さらに0.07上がって+0.93となり、広島大学の授業や研究について、留学生がある程度高い評価を下していることが分かる。また、日常生活についても、決して低くはなく、2004年前期の+0.76よりもわずかに0.01だけ低くなり+0.75になったものの、ある程度高い満足度を示していた。

研究科ごとの満足度指標比較

学部所属の留学生の回答者数が少ないので満足度指標の平均は算出していない。また、大学院研究科およびセンターで、留学生数が10名以上の場合にのみ、満足度指標の平均を表2に示した。灰色のセルは、満足度が平均で+1.00以上を示しており、良い評価と考えてよい。白いセルが目立つほど、評価は低いことになる。2004年後期の平均点で、+1.00以上となったのは、生物圏科学研究科のみで、ちょうど+1.00であった。2004年前期では平均で+1.00以上になる研究科はなかったので、高く評価できるであろう。また、2004年後期で、はじめて10名以上の回答者(11名)があった留学生センターは、+0.91でかなり高い満足度を示した。

2004年後期の満足度指標の平均と標準偏差

#	満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
1	指導教官の研究に対する指導	214	1.23	0.79
2	留学生の研究に関する知識	214	0.72	0.98
3	研究室の人達の助言	210	0.68	1.02
4	カリキュラムの適切性	214	0.58	0.92
5	授業の内容の理解	212	0.50	0.92
6	大学図書館の利用	216	0.97	0.79
7	日本での生活を楽しんでいる	217	0.88	0.93
8	留学生センターの情報提供	217	0.61	0.88
#	総合満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
9	授業と研究に対する総合的満足	217	0.93	0.80
10	日常生活に対する総合的満足	217	0.75	0.86

注1: 1から10までの満足度指標は、2から-2までの変数である。

注2: 灰色のセルは、1.00以上の満足度を示す。

表 2 2004年度後期の留学生の所属する大学院ごとの満足度指標の平均

研究科・センター	留学生回答者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
文学研究科	14	1.71	0.43	0.93	0.71	0.93	0.93	0.86	0.50	0.93	0.43	0.84
教育学研究科	33	1.36	0.88	0.88	0.44	0.42	1.09	0.97	0.58	1.15	0.73	0.85
社会科学研究科	15	1.67	0.87	0.40	0.87	1.14	1.20	1.20	0.07	1.20	0.93	0.95
医歯薬学総合研究科	16	1.31	0.82	0.88	0.94	0.18	0.82	0.82	0.35	1.18	0.94	0.83
工学研究科	26	1.27	0.96	0.62	0.36	0.23	0.96	0.69	0.46	0.85	0.62	0.70
生物圏科学研究科	18	1.56	1.17	0.89	0.78	0.61	1.06	0.89	1.11	1.17	0.78	1.00
国際協力研究科	18	0.72	0.78	0.61	0.28	0.33	0.78	0.89	0.44	0.67	0.56	0.61
留学生センター	11	0.73	0.64	-	0.27	1.27	1.09	0.91	1.36	0.82	1.09	0.91

注1: 1から10までは満足度指標で、2から-2までの変数である。灰色のセルは、1.00以上の満足度を示す。

注2: 満足度指標によって回答者数が異なるが、上記の研究科および留学生センターの集計は大学院生151名(全回答者数217名の69.6.9%)の集計である。

注3: 留学生の回答者数が10名以下の研究科およびセンターは表に含んでいない。

2004 年後期留学生支援調査 自由記述に書かれた個別問題

前期に自由記述に対する個別対応を行っていること、後期の調査では通常より調査項目が多いことから、後期では不満や不安事項を自由に記述してもらうだけにした。54 名からの回答があり、内容は以下の通りであった。

No.	問題	自由記述内容
1	奨学金	日本語が全くできないのに奨学金をもらっている留学生がいること。
2	日本語授業、交流機会	日本語の授業や活動が少ない。
3	宿舎	生活面でもっとサポートして欲しい(学生宿舎に卒業まで住めるようにするなど)。勉強とアルバイトの両立は難しい。
4	日本語	授業がすべて日本語で、私には全く理解できない。
5	日本語	日本語がうまくないので、日本のボランティアと日本語で交流する機会が欲しい。
6	宿舎	部屋が狭く、夫婦や家族で住める住居が欲しい。就職面のサポート(工学部だけが学校推薦があるのはおかしい)。
7	交通	交通の便が悪い。
8	交流活動	交流の場が学生宿舎に無い。
9	宿舎	6ヶ月を過ぎると留学生会館から出なければならないこと。
10	奨学金、宿舎	結婚している留学生は、片方しか奨学金がもらえず、1人分の奨学金では生活が苦しい。日本語での授業は理解できない。
11	図書館	図書館に洋書をもっと入れて欲しい。
12	奨学金	奨学金無しでは勉強面、生活面で非常に苦しい。
13	事務の英語	事務の職員が英語が話せない。
14	奨学金	奨学金制度の不透明さ。よく勉強する学生が奨学金をもらえていない現状がある。
15	運転免許	国際運転免許証があっても車の運転が自由にできないこと。
16	日本語授業	日本語の授業をもっと変えるべき。リスニングやリーディングではなく、日本語の練習をもっとやって欲しい。
17	指導教官	このような調査をしても、状況が全く変わらない。ほとんどの指導教官がよくない。
18	日本語	論文などを日本語しか受け入れてくれないのは、留学生にとって厳しい。

19	交流機会	学生達間のコミュニケーションが少ない。
20	事務手続き	東千田キャンパスはほとんどの大学施設から離れているため、何かの手続きなどはすべて西条キャンパスに来なければならない。
21	図書館、交流活動	もっと多くの種類の奨学金を提供して欲しい。図書館 windows パソコンを増やしてほしい。留学生のための旅行などをして欲しい。
22	交流活動	大学が主催する活動を増やして欲しい。
23	日本語	日本語の授業を受ける時間がないため、会話パートナーを探したがなかなか見つけれなかった。
24	指導教官	教授が留学生を日本人学生と同じようだと考えているために、留学生に十分な準備をしてくれない。
25	生協	大学生協のスタッフが英語が話せないこと。
26	日本語授業	レベル4とレベル5の日本語の授業の差が激しい。「映像日本語」のようなクラスで、日常のテレビ番組やニュースを取り上げる授業をして欲しい。留学生センターで windows も貸してもらえるようにして欲しい。
27	施設・設備、学割、宿舎、見学旅行、授業	教室が寒い。学割などの支援が少ない。寮が少ない。大都市への見学旅行などをして欲しい。新聞や雑誌を取り上げる授業をして欲しい。
28	奨学金、授業料免除	授業料免除や奨学金などの選考基準を明確にして欲しい。
29	授業料免除	授業料免除の制度が不透明かつ不公平であること。
30	日本語授業、交流活動、宿舎	日本語の教科書を一冊にまとめて欲しい。高校や中学校に訪問する機会を与えて欲しい。国際交流センターに1年間入れるようにして欲しい。
31	日本語授業	上級コースの授業スケジュールがタイトすぎてついて行けない。日本語の授業が理論的・言語学的すぎる。日本人学生との会話がしたい。
32	授業	霞キャンパスでの授業が夜に行われることが多く、昼にも授業をして欲しい。
33	日本語授業	霞キャンパスでの日本語の授業が充実していない。
34	日本語	日本語で開かれている講義がほとんどで、他の学部の授業などを受けられない。
35	情報	留学生センターからの情報が少ない。
36	宿舎	プログラムが終わるまで国際交流会館に住めるようにして欲しい。
37	情報、生協	色々なお知らせや大学のスタッフ、生協のスタッフなど、もっと英語が使えるようにして欲しい。

38	カリキュラム	他学部の授業との連携が無く、勉強の機会が狭められている。
39	カリキュラム	授業によって、試験があつたりなかつたりする。
40	日本語、バイト	留学生のサポートが十分でない。特に言語の問題。バイトがなかなか見つからない。
41	授業料、バイト	授業料の問題。TA や RA などを充実させるべき。
42	図書館	西図書館がうるさい。
43	もみじ	もみじはユーザーネームがなければ見られないのが不便。
44	家族サポート	家族に対するサポートの充実。
45	交流機会	留学生と日本人の交流の充実が欲しい。
46	授業料免除	女性に対する授業料免除が厳しい。男女差別を感じる。
47	情報	学部と講座内のお知らせももみじの掲示板からみられたらいいと思う。
48	図書館	図書館のマナーが悪い。
49	カリキュラム	異なる分野の勉強ができる短期コースを作って欲しい。
50	図書館	図書館にもっと洋書をおいて欲しい。
51	日本語	学内のどこでも英語が使えるようにして欲しい。
52	研究生	研究生としてきているのに、研究のことは何もできず、入試のための勉強ばかりしている。
53	日本語	大学院生になっても日本語の授業を受けたい。
54	生活支援	社会的な需要をあまり重視しない部分。生活支援を十分に行っていない。競争を排除して勝手にやっている。

教育交流部門
広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム

堀田泰司、恒松直美

活動の経緯と目的

広島大学短期交換留学プログラムは、短期留学推進制度の一環として、特に日米文化教育交流会議（カルコン）においてジュニア・イヤー・アブロード・プログラムによる留学生の受け入れを積極的に推進するよう勧告されていることもあり、アメリカ合衆国を主たる対象国としながら北米、オセアニア、アジア、ヨーロッパ諸国の大学（短期学生交流協定校）に在籍する学部学生で、本学に一学期もしくは一学年度の短期間留学を希望する者を対象とするものである。日本語の習得に加え、特別に「英語による授業科目」を開設することをもって、本学で教育を受ける機会を提供し、もって学生交流を活性化させ、本学の一層の国際化に資することを目的とするものである。そのために特に本学では、様々な学部から特色ある専門的科目や日本・アジア理解を推進する専門的科目を提供し、将来、日本やアジアの事情に通じた人材の育成に貢献するとともに、本学の学生の国際感覚を身につけた大学生の養成を目指している。

また 2001 年より、こうした交換留学事業がより効率的且つ効果的におこなわれるよう UMAP 事業が提唱する UCTS (UMAP Credit Transfer Scheme) を適応している。HUSA プログラムは、短期交換留学実施ワーキンググループによって統括されており、合計 15 名の各学部代表委員並びにその他委員により運営されている。

但し、実務的な管理運営にあたっては、留学生センターの教育交流部門並びに国際部留学交流グループがその主たる業務を担っている。

I. 受け入れプログラムの概要

- ・ 受け入れ期間：一学期または、一学年
- ・ 募集人員： 50 名
- ・ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ 応募資格：
 - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生

- (2) 原則として自国の大学の正規課程3年次の学部学生（協定校によっては、院生も含む）
- (3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
- (4) 非英語圏から応募する学生にあつては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ **選考方法：** 短プロ実施部会において、協定大学の推薦と UMAP 学修計画書を参考にしながら、書類をもって選考する。
- ・ **学生の身分と受け入れ方法：** 学生は、留学生センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- ・ **授業料等の不徴収：** 交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない。（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）
- ・ **カリキュラム：** 授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSA プログラムの学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」は、既に学部で開設されていたもの、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えて授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、留学生センターが実施している日本語・日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で日本人学生用に開設されている授業を受講することができる。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2004-2005年度に開設された授業科目一覧表である。

2004-2005年度（2004年10月～2005年7月）授業科目一覧

[2004年度秋学期]

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	学部
Cultural Aspect of Science Education in Japan	2単位	教育学部

Family Life in Japan	2 単位	教育学部
Seminar in Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部
Seminar in Multicultural Art Education	2 単位	教育学部

2. 常設科目【Regular Course】

授業科目名	単位数	学部
「コミュニケーション能力」の概念分析	2 単位	教育学部
イギリス小説文学演習	2 単位	文学部
異文化コミュニケーション論入門	2 単位	総合科学部
英語圏文学講義	2 単位	文学部
機械活用教材演習 I	2 単位	教育学部
言語哲学演習	2 単位	総合科学部
口腔の科学：食生活と全身の健康	2 単位	歯学部
生物海洋学実験実習	2 単位	生物生産学部
中期英語演習	2 単位	文学部
特別科目Ⅲ（日本経済論）	2 単位	経済学部
日本の文化の教育	2 単位	教育学部
日本の法制度と社会	2 単位	法学部
日本社会と歴史、ジェンダー	2 単位	総合科学部
物理科学実験 B	2 単位	理学部
歴史風景解析学	2 単位	文学部

[2005年度春学期]

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	学部
Art Education in Japan: Theory and Practice	2 単位	教育学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Educational Material Development for International Understanding	2 単位	教育学部

Food Pathogenic Microbiology	2 単位	生物生産学部
Frontiers of Material Science	2 単位	総合科学部
Internship for HUSA program	2 単位	教育学部
Japanese Language and Literature, and Teaching Methods for Natives	2 単位	教育学部
Japanese Linguistics from Contrastive Perspective	2 単位	教育学部
Mathematical Structures	2 単位	教育学部
Microbiology	2 単位	生物生産学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Psychophysics Toolbox and MATLAB programming	2 単位	教育学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部

2. 常設科目【Regular Course】

授業科目名	単位数	備考
CMOS 論理回路設計	2 単位	工学部
異文化コミュニケーション論演習 A	2 単位	総合科学部
英語ディベート演習	2 単位	総合科学部
開発と国際教育	2 単位	教育学部
機械活用教材演習 II	2 単位	教育学部
景観生態学	2 単位	総合科学部
現代国際法論演習	2 単位	総合科学部
言語学入門	2 単位	総合科学部
言語哲学（講義）	2 単位	総合科学部
語用論	2 単位	総合科学部
広島・長崎講座：平和と人権	2 単位	総合科学部
細胞生物学	2 単位	医学部
地球科学野外巡検 A	2 単位	理学部
日本における障害者の歴史と特殊教育の傾向と課題	2 単位	教育学部
日本の政治と対外関係	2 単位	法学部
日本音楽演習	2 単位	教育学部

物理科学実験 A	2 単位	理学部
物理科学実験 A, B	2 単位	理学部
分子生物学演習	2 単位	総合科学部

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	所属
日本語初級 I A	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 I B	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 I C	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 I D	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語初級 I I A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級 I I B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級 I I C	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 I A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 I B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 I C	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 I I A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 I I B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級 I I C	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語聴解特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語表現特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語古文特別演習 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (リスニング)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (映画)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (古典)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (語彙)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (表現)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語上級 B (分析)	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会・文化 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本社会と文化 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター

日本の思想・哲学 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本思想と哲学 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本の映像文化史 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎（日本人・留学生混在型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。(3) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼しないで、機関保障（広島大学）とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の短期互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2004-2005 年度 HUSA プログラム受け入れ状況

2004-2005 年度は、アメリカ、オーストラリア、イギリス、オランダ、ドイツ、インドネシア、タイ、フィリピン、韓国、中国の 20 大学と 1 コンソーシアム（2002 年度 22 大学、2003 年度 24 大学）から計 43 名（2002 年度 39 名、2003 年度 47 名）の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると男子学生 25 名、女子学生 18 名であった。

III. 2004-2005 年度 HUSA プログラム受け入れ活動

申請と選考：2005 年度募集要項は、昨年 2 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に本学の選考委員会によって HUSA 参加者が正式決定された。今年度も受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書も申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料として利用した。昨年の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録を受け付け始めたが、本年度も同じオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。昨年は初めての試

みで、試行錯誤もあり、問題点などもあったが、本年度は昨年の経験も踏まえ、より効率的な形でオンライン登録ができた。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成、管理にオンライン登録を活用していきたい。

渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留學生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留學生用手引き」を各學生に送付した。また、ホームページによって HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留學生がよく疑問に思う事項について説明した。さらに、學生の個人的な質問等には、電子メールやファックスを活用し、直接個々のケースに対応した。

チューターオリエンテーション：日本人學生チューターに対し、今年度も事前に 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第 2 回目は、留學生が来日する直前に、渡日後 1 週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

見学・体験学習：短期留學生を対象に毎年 10 月から 11 月にかけて、酒祭り見学、秋大祭見学、文化交流のための学校訪問、文化体験学習の機会を提供してきた。2005 年春学期にも、花見、どろんこバレーボール大会、禅寺での研修プログラム等計画している。

授業科目の開設状況：短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も 82 科目（一般 53 科目、日本語教育：春学期 25 科目、秋学期 29 科目）が短期交換留學生のために開講された。一昨年から留學生センターが実施している日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となった。昨年からは初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留學生そして研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

2003 年度より春学期にインターンシップ・コースを開設し、2003 年度は企業・官公庁に 3 名、2004 年度は 6 名を派遣した。インターンシップ終了後、東広島商工会議所関係者、インターンシップ受け入れ企業を含めた東広島経済同友会役員、広島大学国際担当学長補佐、HUSA 担当教員、国際部留學生交流グループ職員を交えて、インターンシップ受講留學生のプレゼンテーションの場を設け、インターンシップ体験談を披露した。地域との連携の中で大学の国際化と留學生の日本での就業体験をさらに充実したものにしていきたい。

文化交流支援活動：例年通り二つのホームステイプログラムを実施した。口和町教育委員会と協力して、11月に第7回目のホームステイプログラムを実現した。参加したHUSA留学生は各家庭訪問に加え、全体での交流や、消防訓練実地体験、祝詞、着物着付け、餅つきなど日本文化体験を楽しんだ。また、忠海高校とも協力し、第3回目のホームステイプログラムを行った。家庭でのホームステイに加え、高校での全体交流、各グループに分かれて、茶道、書道、調理、メディアのクラスなどを体験した。その他にも、昨年同様、友禅染講習を行い、伝統的日本文化を学生が体験する機会を設けた。さらに、当留学生センターの指導部門による国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介し、交流を促進した。また、日本人チューターを本年から選考方法を変え、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

地域貢献：2003年度より、東広島商工会議所から、国際理解のための留学生の母国についての講和を依頼されている。2003年度はフランス・韓国、2004年度はアメリカ・カナダ・ギリシャからのHUSA留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。また、計30名のHUSA留学生が、地域の小学校・中学校・高校で「教室で学ぶ国際理解」に参加し、国際交流した。2005年度2月には広島市民教室筆の里工房見学に13名の学生が参加した。2004年9月及び2005年1月には、国立江田島青年の家と広島大学留学生センターとの共済で、外国人と日本人が交流を通して異文化コミュニケーション能力を身につけることを目的とした「国際交流ボランティアセミナー」が江田島青年の家で開催され、HUSA留学生も参加した。さらに、2004年11月には、留学生と留学生の家族、広島大学職員の参加するバス見学旅行「りんご狩りツアー」にHUSA留学生も参加した。

HUSA 広報活動：HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSAに関するニュース、開講コース案内、シラバス、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流イベント案内、HUSAパンフレット、広島大学及び地域についての情報など、すべてが網羅されている。サイトを常に更新し、HUSAプログラムについての最新情報を提供している。2005年3月には、協定大学であるオーストラリアのラ・トロープ大学で開かれたAnnual Exchange Fairにコーディネーター及び国際部職員が参加し、HUSAプログラムについてのプレゼンテーションを行い、更にブースを設置して、プログラ

ム広報を行った。また、他大学の留学生オフィス・コーディネーターとも親交を深めた。さらに、3月末に中国の首都師範大学で行われた「広島大学・首都師範大学学術・技術交流会2005北京」にHUSAコーディネーターも参加し、「留学相談コーナー」ブースにてHUSAプログラム及び広島大学への留学についての情報を提供した。

HUSAプログラム評価：プログラム改善の参考とするため、毎学期、HUSAプログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。

IV. 2004-5年度 HUSA 留学生派遣計画

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も1月初旬に応募者の選考試験を行い、1月中には実施委員会で選考、2～5月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、派遣学生の募集に関する17年度の募集に過去の資料を加え、まとめたものである。

海外派遣学生の募集について

1. 制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、概ね1学年以内の1学期又は、複数学期教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度で、平成8度後期から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、中国、韓国、ロシア、ポーランド、ドイツ、オランダ、スウェーデン、イギリスの大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、本学の学部学生を各国各協定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は派遣先大学において授業料不徴収及び単位互換認定の制度を内容としており平成16年度の派遣学生を別紙の通り募集します。選考に当たっては、広島大学短期交換留学プログラム及び独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）短期留学推進制度による海外派遣学生を短期交換留学実施部会員のよって同時に行っている。

2. 特徴：

- ・ 授業料不徴収
- ・ 単位互換制度
- ・ 現地コーディネーターのアシスタント
- ・ 短期交換留学生との留学前の交流と留学後の現地での交流

3. 出願書類 (①、②の様式については、各学部等の派遣留学担当係で受け取ってください。)

- ①派遣申請書（所定の様式）
- ②留学計画書（所定の様式）
- ③TOEFL成績表

英語能力を応募条件とする大学に留学予定の学生；530点（CBT197点）以上が望ましい。ただし、USAC語学文化研修応募希望者については、500点（CBT173）が必須条件。

注. 英語圏以外で英語能力を応募条件としない大学に留学予定の学生は、別途行う学内語学試験の成績による。

- ④学業成績証明書（大学院生については、学部の学業成績証明書も含む。）

4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係 平成16年11月29日（月）

5. 面接（口述）試験（USAC応募者のうちJASSO奨学金制度に応募しない者を除く）

平成17年1月7日（金）予定

6. 留学中の学生の身分

この制度を利用して留学する場合は、「留学願」の届出を行い、必ず学長の許可を受けなければなりません。この場合、外国の大学での学修は本学の教育課程の延長線上にあるものとして考えられ、次のとおり修学上の取り扱いがなされます。

- ・ 外国の大学で学修した成果は本学の履修単位として換算することが可能であり、従って換算された単位は当然卒業に必要な単位数に算入されます。
- ・ 「留学」の期間は、在学期間に算入され、卒業に必要な在学期間の一部となります。
- ・ 「留学」の期間は、本学に所定の授業料を支払わなければなりません。

V. HUSA 留学生派遣事業の実績

2004年度の短期交換留学生派遣に関しては、既に29名を推薦し、16大学へ派遣した。また、2005年度派遣留学生に関しては、すでに、アメリカ、オーストラリア、中国、イギリス、フランス、ガーナ、オランダの16校へ23名の推薦が決定している。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

- ・ 広報活動：例年通りHUSA留学生も協力し、留学フェアを7月に開催した。各協定大学からの留学生がブースを設け、また日本人学生の派遣のための説明会も開催した。事前にビラ6千枚を用意し、各学部に配布、5百枚をキャンパスで配布した。日本人学生130名が留学フェアを訪れた。さらに、8月の広島大学オープン・キ

キャンパスでもブースを設け、訪問した高校生に HUSA プログラムについて説明した。早い時期に HUSA について知ってもらうため、4 月に入学する学生に渡す書類一式の一部でも HUSA に関する情報を渡した。HUSA ホームページにはプログラムの概要すべてが網羅されているが、サイトを常に更新し、HUSA についての最新情報を提供している。

- **留学前の情報提供と留学計画の促進**：例年、派遣が決定した本学の学生に対し 2 度に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教官並びに学部との単位互換に関する話し合いの場を設ける意味で、UMAP 学習計画書を 4 月の第 1 回目のオリエンテーションで配布し、留学 2～3 ヶ月前までに、提出するよう要求している。
- **夏季語学研修プログラムの促進**：2004 年度も協定校のサマープログラムの募集を行ったが実際に留学にまで至った学生は残念ながらいなかった。しかし、今後も特に交流数の不均衡が生じている協定校で、サマープログラムを開講しているものに関しては、その機会を積極的に利用するよう、さらに募集にも積極的に組み込む計画である。また、2004 年度は、コンソーシアム型の交流を行っている USAC (University Study Abroad Consortium) を利用し、授業料不徴収の枠内で、オランダのユトレヒト大学とガーナのガーナ大学への 2005 年の夏季語学研修プログラムへすでに 1 名ずつの派遣を決定している。さらに、3 月には、スペインのマドリッドとビルバオにある USAC キャンパスを 2 校訪問し、今後の派遣に向けて情報を収集した。USAC の語学研修プログラムは、短期留学の機会を拡大させるので、今後も積極的に広報し、学生の参加を奨励したい。
- **UCTS を利用した単位互換の実態調査**：2003 年から 2004 年度に留学した本年度の学生が UCTS を利用して単位互換した状況について実態調査を行った。その結果、多くの学生は、以前として単位の科目の読み替えによって留学先で取得した単位数の多くを本学に互換できずにいることが判明した。これは、科目ごとの読み替えが行われるため、取得単位数と同等の単位を互換するためには、似通った科目をいくつか集めて互換申請しなければならず、現実的には、似通った科目がそれほどないため発生している問題である。学生が海外で取得した単位数をそのまま互換するためには、どうしても、海外の科目をそのまま受け入れる「海外特別科目」(仮称) のような科目を設け、海外の単位をそのまま互換することが必要である。今後も派遣

学生の単位互換の状況を調査し、本学の単位互換制度の改革を行っていく計画である。

VII. その他の活動

[2004年]

- 3月 *名古屋大学、早稲田大学、立教大学、上智大学を訪問し、留学生関連部局の活動状況、他大学短期交換留学プログラムについて調査した。
- 5月 *イギリス・リーズメトロポリタン大学 国際学部長来校
*ハワイ大学日本研究センター ディレクター・副ディレクター来校
- 7月 *オランダ・アムステルダム大学 コーディネーター来校
- 8月 *イギリス・シェフィールド大学 コーディネーター来校
- 9月 *ハンガリーのブタペストで開催された INU の国際交流担当者会議に出席
- 12月 *一橋大学、東京外国語大学を訪問し、短期交換留学プログラムについて調査した。

[2005年]

- 2月 *ハワイ大学と広島大学のサマースクール・プログラムについての話し合いのため、
ハワイ大学・アウトリーチ・カレッジ学部長ピーター・タナカ教授来校
* 文部科学省の海外先進教育研究実践支援プログラムの支援を受け、海外高等教育機関における単位認定制度調査のため、ベルギー、オランダ、フランス、スペインを6週間調査した。
- 3月 *オーストラリア・ラトロブ大学留学フェアに参加
*広島大学・首都師範大学 学術・技術交流会2005北京に参加

2004年度第1回広島大学留学生センター講演・討論会報告

中 矢 礼 美

2004年10月29日に、東京医科歯科大学留学生センターの山下早代子教授をお招きし、「医・歯学系留学生センターのカリキュラムデザイン」について、講演して頂いた。その後、「留学生教育カリキュラムのあり方」について、主に「日本事情教育のあり方」と「英語での講義のあり方」を中心に、活発な議論・意見交換を行うことができた。

<プログラム>

「留学生教育カリキュラムの開発」

日時：10月29日(金) 13:30～17:00

場所：広島大学学生会館レセプションホール（午前の部）

会議室1, 2（午後の部）

日程：

13:00～13:20	受付
13:20～13:30	開会の挨拶 多和田 眞一郎（広島大学留学生センター長）
13:30～14:40	基調講演 「医・歯学系留学生センターのカリキュラムデザイン」 講演者 東京医科歯科大学留学生センター 山下早代子先生
14:40～15:00	質疑応答
15:00～15:15	休憩
15:15～17:00	討論会

「留学生教育カリキュラムのあり方について」

○日本事情教育のあり方

○英語での講義のあり方 など

<講演者>

山下早代子（東京医科歯科大学留学生センター）

<参加者>

安秉杰	（南ソウル大学）	上條 厚	（信州大学）
斉藤 美智子	（岡山大学）	中村 和泉	（岡山大学留学生センター）
中川 良雄	（京都外国語大学）	石川 雄一	（横浜国立大学留学生センター）

中西 泰洋（神戸大学）

平澤 洋一（城西大学）

道脇 綾子（東京外国語大学）

広島大学留学生センター全教員

北浜 榮子（大阪大学留学生センター）

船津 秀樹（小樽商科大学）

田中 京子（名古屋大学留学生センター）

<講演・討論会のもよう>



京医科歯科大学留学生センターの山下早代子教授から、医・歯学系大学におけるカリキュラム作成や、独自の取り組みが紹介された。



日本語・日本事情の教授法や留学生指導の今後の課題などについて、他大学の留学生センター関係者の方々と多くの議論を交わした。

* 講演・討論会実施委員会：多和田、中川、中矢、恒松

留学生と客員研究員の

家族のための日本語特別クラス

中川正弘

留学生センターでは、広島大学に在籍する外国人留学生、外国人客員研究員などの家族を対象とした中級日本語クラスを2004年10月より開講しました。

これは多数の留学生の要望に応じて行うもので、広島大学の外国人留学生、外国人客員研究員の生活条件の重要な部分を占める家族の生活を向上させることで、彼らの研究活動を側面から支援します。

日本語のレベルを中級Ⅰと中級Ⅱに分け、どちらも1コマ60分の授業を週二日行います。

受講料：5000円

場所：東広島キャンパス内大学会館集会室

講師：留学生センターの推薦する謝金講師

問い合わせ／受け付け：広島大学本部留学交流グループ

2004年度後期	中級Ⅰ	8名
	中級Ⅱ	7名

留学生センター教員研究・その他の活動業績

1. 研究論文・著書

- 浮田三郎 (2004) 「ギリシアのことわざと文化」『月刊 言語』第33巻, 第7号 pp. 68-73.
- 王雪, 浮田三郎 (2005) 「日本と中国における酒に関する諺の対照考察 (1)」西日本言語学会編『ニダバ』第34号 pp. 125-134.
- 伍維誼, 浮田三郎 (2005) 「日本と台湾の親子関係に関する諺の対照比較研究」西日本言語学会編『ニダバ』第34号 pp. 135-144.
- Tamaoka, K., & Terao, Y. (2004) "Mora or syllable? – Which unit do Japanese use in naming visually-presented stimuli?" *Applied Psycholinguistics*, vol. 25, pp. 1-27.
- Tamaoka, K. Lim, H., & Sakai, H. (2004) "Entropy and redundancy of Japanese lexical and syntactic compound verbs" *Journal of Quantitative Linguistics*, vol.11 no.3, pp. 233-250.
- Tamaoka, K. Makioka, S. & Murata, T. (2004) "Are the effects of vowel repetition influenced by frequencies?: A corpus study on CVCVCV-structured nouns with and without vowel repetition" *Glottometrics*, vol. 8, pp. 1-11.
- Tamaoka, K., & Makioka, S. (2004) "New figures for a Web-accessible database of the 1,945 basic Japanese kanji, fourth edition" *Behavior Research Methods, Instruments, & Computers*, vol. 36 no.3, pp. 548-558.
- Tamaoka K., & Altmann, G. (2004) "Symmetry of Japanese kanji lexical productivity in the left- and right-hand sides" *Glottometrics*, vol. 7, pp. 65-84.
- Tamaoka, K. & Makioka, S. (2004) "Frequency of Occurrence for Units of Phonemes, Morae and Syllables Appearing in a Lexical Corpus of a Japanese Newspaper" *Behavior Research Methods, Instruments, & Computers*, vol. 36 no.3, pp. 531-547.
- Koizumi, M. & Tamaoka, K. (2004) "Cognitive processing of Japanese sentences with ditransitive verbs" *言語研究*, vol. 125, pp. 173-190.
- Tamaoka, K., Sakai, H., Kawahara, J., Miyaoka, Y., Lim, H., & Koizumi, M. (2005) "Priority information used for the processing of Japanese sentences: Thematic roles, case particles or grammatical functions?" *Journal of Psycholinguistic Research*, vol. 34 no.3, pp. 273-324.
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄・母育新 (2004) 「中国語を母語とする日本語学習者の文法知識が敬語習得に及ぼす影響」『広島経済大学研究論集』第27巻 第2号, pp. 35-46.
- 林炫情・玉岡賀津雄 (2004) 「韓国の職場での呼称使用の適切性判断に及ぼす属性・対人関係特性・性格特性の影響」『広島経済大学研究論集』第27巻 第1号, pp. 29-44.
- 桑原陽子・玉岡賀津雄・坂野永理 (2004) 「漢字の読みの学習に関する時系列分析 — 入門期の非漢字圏日本語学習者を対象に」『岡山大学留学生センター紀要』第11号, pp. 47-58.

- 松下達彦・Marcus Taft・玉岡賀津雄 (2004) 「中国語「単語」を知っていることは日本語漢字語の発音学習に役立つか?」『中国語・日本語学論文集 (平井勝利教授体験記念, 桜美林大学)』 pp. 578-590.
- 玉岡賀津雄 (2005) 「サンズイとイトヘンはどのくらい漢字の意味に影響するか」『広島大学留学生センター紀要』 第 15 号 pp.11-24.
- 玉岡賀津雄・松下達彦・元田静 (2005) 「日本語版 Can-do Scale はどれくらい正確に日本語能力を測定しうるか」 広島大学留学生センター編『留学生教育』 第 9 号. pp. 63-75.
- 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生 (2005) 「味覚形容詞「甘い」「辛い」「渋い」「苦い」「塩辛い」「酸っぱい」の基本義と別義に関する新聞および小説のコーパス出現頻度の解析」『日本語研究』 第 12 号 pp. 131-142.
- 田村泰男 (2005) 「現代日本語の接頭辞について」『広島大学留学生センター紀要』 第 15 号 pp.25-36.
- 水町伊佐男・多和田眞一郎・茅本百合子・桑原陽子・山中恵美 (2004) 「日本語 CALL 聴解練習用コースウェアの開発と評価」(共著) 日本教育工学会編『日本教育工学会論文集』 特集号 pp.337-346.
- 多和田眞一郎 (2004) 「16 世紀の沖縄語 (音声・音韻) —口蓋化・破擦音化—」『広島大学留学生センター紀要』 第 14 号 pp.1-13.
- 多和田眞一郎 (2004) 「口蓋化・破擦音化—16 世紀の沖縄語について—」『広島大学留学生教育』 第 8 号 pp.15-24.
- 多和田眞一郎 (2004) 「沖縄語音韻史—口蓋化・破擦音化を中心として—」 日本音声学会編『音声研究』 第 8 巻第 2 号 pp.58-68.
- 多和田眞一郎 (2005) 「言葉の取替え そして 言語の変化 (沖縄語を例として)」 大韓日語日文学会編『日語日文学』 第 25 輯 pp.9-19.
- Tsunematsu, Naomi (2004) “Gender Power under Female Leadership: A Local Women’s Association in Japan”, *Japanese Studies*, Carfax Publishing, Taylor & Francis Ltd, Vol. 24 no.1, pp.97-114.
- 恒松直美 (2005) 「日本社会における異文化理解: 留学生の視点—国際交流広島大学短期交換留学プログラム留学生日本語スピーチ発表会『広島大学留学生から見た日本』を開催して—」『広島大学留学生センター紀要』 第 15 号 pp. 37-62.
- 恒松直美 (2005) 「短期交換留学プログラム (HUSA) インターンシップコース開講: 地域企業・官公庁との連携」 広島大学留学生センター編『留学生教育』 第 9 号 pp. 15-35.
- 中川正弘 (2005) 「日本語の簡約化と文体という視点」『広島大学留学生センター紀要』 第 15 号 pp. 1-10.
- 二宮皓、中矢礼美、出口真弓 (2004) 「Cross-Cultural Competency を育成するカリキュラムの開発と検証」 日本カリキュラム学会編『カリキュラム研究』 第 14 号、pp. 89-102.

Ayami NAKAYA(2004) "Muatan Lokal for the Lokal Community: A study of Life and Environment Education Subject in Jakarta -PLKJ" *Pacific Asian Education*, vol.16, pp.38-48.

茅本百合子・桑原陽子・深見兼孝 (2005) 「CALL クラス「CALL & メールクラス」の試み」
広島大学留学生センター編『留学生教育』第9号 pp. 53-62.

深見兼孝・林炫情(2005)『ベーシック韓国語』広島大学生協同組合 (学内限定)

深見兼孝・林炫情(2005)『ベーシック韓国語練習』広島大学生協同組合 (学内限定)

堀田泰司 (2004) 「海外留学と日本企業における雇用機会」『広島大学留学生センター紀要』第14号 pp. 15-27.

船津秀樹、堀田泰司 (2004) 「海外留学に関する意思決定問題」『小樽商科大学商学討究』第55巻第1号 pp. 89-108.

堀田泰司、船津秀樹 (2005) 「留学に対する学生の意識と日本の留学生政策の発展」広島大学留学生センター編『留学生教育』第9号 pp. 1-14.

2. 学会発表

浮田三郎 (2004) 「ギリシア語と日本語の親子に関する諺の対照比較研究」 日本ギリシア語文学会 於広島大学 2004年10月16日

浮田三郎 (2004) 「比較言語文化と授業一諺の対照比較研究をもとに一」 言語文化教育学会 於大阪大学 2004年11月20日

Tamaoka, K., Miyaoka, Y., & Matsushita, T. (2004) "Inter-language activations and inhibitions in cognitive word processing by bilinguals in the Chinese and Japanese languages" Japanese Society for Language Sciences (JSLs) 2004 Conference. (July 17-18, 2004, Hishigaoka Campus, Aichi Shukukoto University)

Tamaoka, K., Miyaoka, Y., Ito, T., & Sakai, H. (2004) "The canonical position of instructional and locative adverbs in the cognitive processing of Japanese sentences and noun phrases" 日本言語学会第128回大会 (2004年6月19日から20日, 東京学芸大学)

Tamaoka, K., Miyatani, M., Zhang, C., Shiraishi, M., & N. Yoshimura (2004) "Symmetry or asymmetry? - An event-related potential (ERP) study on the language processing of Chinese and Japanese bilinguals" Conference of Japan Second Language Association (June 5-6, 2004, Maebashi, Japan)

Tamaoka, K., Miyatani, M., Zhang, C., Shiraishi, M., & Yoshimura, N. (2004) "An ERP study on activations of untargeted words by highly advanced Chinese and Japanese language" 第7回認知神経心理学研究会 (2004年8月6日から7日, 広島県立保健福祉大学)

Tamaoka, K. (2004) "The canonical order of adverbs in Japanese sentences and noun phrases investigated by psycholinguistic experiments" 第260回広島言語文化談話会 (2004年6月26日, 広島女学院大学)

- 玉岡賀津雄 (2004) 「L1 の子どもの言語獲得の争点, 日本における母語・継承語教育—その実態と可能性の追求」 母語・継承語・バイリンガル教育研究会 2004 年度大会 (2004 年 8 月 8 日, お茶の水女子大学)
- Sakai, H., Tamaoka, K., Kawahara, J., Fujiki, D., & Fukuda, M. (2004) “Priming and blocking in the processing of Japanese verb morphology” Tokyo Conference on Psycholinguistics 2004 (March 12-13, 2004, Keio University, Japan)
- Tanaka, J., Tamaoka, K., & Sakai, H. (2004) “Syntactic Priming Effects in Japanese Sentence” Comprehension International Symposium on Communicating Skills of Intention (February 12-13, 2005, Aso Rehabilitation College, Fukuoka, Japan)
- 小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生 (2004) 「文読解時間に与える統語構造と格助詞配列順序の影響—「ヲ格目的語動詞使役文」と「ニ格目的語動詞使役文」との比較」 日本言語学会第 129 回大会, (2004 年 11 月 20 日から 21 日, 富山大学)
- 小泉政利・玉岡賀津雄 (2004) 「文解析実験による陳述・時・様態・結果の副詞の基本語順の判定」 日本言語学会第 128 回大会(2004 年 6 月 19 日から 20 日, 東京学芸大学)
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄 (2004) 「接頭・接尾辞と漢字二字熟語との結合力に関する日韓対照研究」 第 10 回韓国日本語学会 (2004 年 9 月 18 日, 誠信女子大学, ソウル, 韓国)
- 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生 (2004) 「味覚形容詞「甘い」「辛い」「渋い」「苦い」「塩辛い」「酸っぱい」の基本義と別義に関する新聞および小説のコーパス出現頻度の解析」 第 10 回韓国日本語学会 (2004 年 9 月 18 日, 誠信女子大学, ソウル, 韓国)
- 村岡諭・玉岡賀津雄・宮岡弥生 (2004) 「かき混ぜ文の処理における格助詞の影響」 電子情報通信学会・「思考と言語」研究会 (2004 年 7 月 9 日, 電気通信大学)
- 田中潤一・玉岡賀津雄・酒井弘 (2004) 「文処理における統語的プライミング効果」 電子情報通信学会・「思考と言語」研究会 (2004 年 7 月 9 日, 電気通信大学)
- 多和田眞一郎(2004) 「言葉の取替え そして 言語の変化 (沖縄語を例として)」 大韓日語日文学会 2004 秋季 国際学術大会 (招請講演) 2004 年 11 月 27 日
- 多和田眞一郎(2005) 「日本の国語文法教育」 韓国文法教育学会第 2 回全国学術大会 2005 年 1 月 28 日
- 二宮皓、中矢礼美、出口真弓 (2004) 「Cross - Cultural Competence を育成する授業の実践報告」 第 14 回国際理解教育学会、2004 年 6 月 5 日
- 中矢礼美 (2004) 「インドネシアにおける「学校を基盤とする質の向上のための経営」 『課題研究Ⅱ 学校ガバナンスの国際比較: その現状と課題』 第 40 回日本比較教育学会、2004 年 6 月 27 日
- 中矢礼美 (2004) 「インドネシアにおける「学校を基盤とする質の向上のための経営」に関する研究』 第 56 回中国四国教育学会、2004 年 11 月 28 日

堀田泰司 (2004) 「日本からの派遣留学生拡大に向けた基礎研究」第 40 回日本比較教育学会、名古屋大学、2004 年 6 月 26 日

3 学術研究補助金

石原淳也、研究代表者 (平成 14 年度～平成 16 年度) 若手研究 (B) 「中国人日本語学習者の発音にみられる「不明瞭さ」の音声学的研究」

玉岡賀津雄、研究代表者 (平成 16 年度～平成 17 年度) 基盤研究 C(2) 「中国語、韓国語およびトルコ語を母語とする日本語学習者の日本語語順の習得」

玉岡賀津雄、研究分担者 (平成 14 年度～平成 16 年度) 基盤研究 C(2) 「動詞形態の認知処理過程を手がかりとした言語機構の構造の解明」(研究代表者、広島大学大学院教育学研究科助教授・酒井弘)

玉岡賀津雄、研究分担者 (平成 16 年度～平成 18 年度) 基盤研究 C(2) 「動詞の項構造、統語構造と基本語順に関する認知脳科学的研究」(研究代表者、東北大学大学院文学研究科言語科学専攻助教授・小泉政利)

玉岡賀津雄、研究分担者 (平成 16 年度～平成 21 年度) 独立行政法人科学技術振興機構(JST)・社会技術研究システム推進室・社会技術研究事業研究領域「脳科学と教育 タイプⅡ」研究課題「言語の発達・脳の成長・言語教育に関する統合的研究」(研究代表者、東京都立大学人文学部助教授・萩原裕子)

恒松直美、研究代表者 (平成 16 年度) 「廣大短期交換留学プログラム (HUSA) 留学生のための英語で行う授業 (英語圏の大学・大学院相当の授業) の日本人学生への開講ニーズ調査：日本人学生への開講に向けて」広島大学学長裁量経費助成金

中矢礼美、研究代表者 (平成 16 年度) 「外国人児童・生徒への地域での教育支援方策のあり方等に関する研究」広島大学地域貢献研究

中矢礼美、研究分担者 (平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月)、「グローバル時代に対応した国際理解教育のカリキュラム開発に関する理論的実証的研究」学会科学研究

深見兼孝、研究代表者 (平成 14 年 9 月～平成 16 年 8 月) 「代名詞的用法の対称詞および他称詞に関する日韓対照研究」科学研究費補助金 (特別研究員奨励費)

堀田泰司、研究分担者 (平成 15 年度～平成 16 年度) 基盤研究 C(2) 「地域経済統合の進展と高等教育サービスの国際貿易に関する研究」(研究代表者、小樽商科大学経済学科教授・船津秀樹)

4 その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

石原淳也、日本語教育学会、中国地区研究集会委員

石原淳也、日本総合学会、評議員

石原淳也、韓国日本文化学会、海外理事

浮田三郎、財団法人石田教育振興財団、評議員

浮田三郎、日本ギリシア語ギリシア文学会、副会長

浮田三郎、言語文化教育学会、理事

浮田三郎、西日本言語学会、運営委員

玉岡賀津雄、日本言語学会、役員

玉岡賀津雄、日本音韻論学会、理事

玉岡賀津雄、日本認知科学会、運営委員

玉岡賀津雄、日本読書学会、理事

Katsuo Tamaoka, International Reading Association, Japanese Representative of the
International Development in Asia Committee

多和田眞一郎、日本総合学術学会、会長

多和田眞一郎、韓国日本文化学会、海外理事

多和田眞一郎、神戸大学留学生センター外部評価委員会、委員

多和田眞一郎、「キワニス留学生奨学金日本語作文」審査委員会、委員長

中矢礼美、『国際教育協力論集』編集委員会、委員

深見兼孝、西日本言語学会、運営委員

深見兼孝、日本総合学術学会、理事

深見兼孝、広島県立図書館、図書選定委員

堀田泰司、UMAP 日本国内委員会、専門委員

B. 講演・ワークショップ・等

浮田三郎 (2005) 「日本の諺と文化」於インドネシア大学文学部、2005年3月19日

玉岡賀津雄・宮岡弥生 (2005) 「中国語と日本語の語彙処理における二言語間の影響関係—非対称性と対称性」、シンポジウム「認知脳科学から見た外国語教育」で講演、東北大学大学院文学研究科主催、2005年2月20日。

玉岡賀津雄 (2005) 「日本語と中国語の語彙処理における言語間干渉—反応時間、誤答率、事象関連電位(ERP)の研究からの考察; Interlanguage interference on the lexical processing of Japanese and Chinese characters · Studies with reaction times, error rates and event-related potentials (ERPs)」国際シンポジウム「第二言語習得における母語の影響」で講演、(2005年1月14日、名古屋大学文系総合館7Fカンファレンスホール)。

Tamaoka, K. (2004) 'Word inflections in second language acquisition: Dual-processing model vs. connectionist model: Dual-processing model. Japanese Society for Language Sciences (JLS) 2004 Conference Symposium Speaker, (July 17, 2004, Aichi Shukukoto University, Nagoya).

- 玉岡賀津雄(2004)「第二言語習得研究と反応時間パラダイム—反応時間データの分析方法—」
名古屋大学大学院国際開発研究科セミナー講師(2004年12月23日,名古屋大学大学院
国際開発研究科).
- 中川正弘、(2005)「広島大学における日本語・日本文化研修プログラムの現状について」日欧
国際シンポジウム『欧州における日本語日本文化教育の展望—欧州と日本との教育的
連携を目指して—』、大阪外国語大学・日本学生支援機構共催、東京国際交流館、2005
年3月6日
- 中矢礼美(2004)「国際理解教育を通してコミュニケーション能力を高める方法」についての講
話、広島市立久地南小学校の校内研修、2004年5月24日
- 中矢礼美(2004)「国際理解教育講座：地球市民的資質の育成と参加型学習プログラムの開発」
についての講和、広島市教育センター、2004年5月28日
- 中矢礼美(2005)「日本の教育行政制度」についてのインドネシア語での講義、JICA(コース名：
平成16年度「地方教育行政(インドネシア)」)、2005年2月8日
- 堀田泰司(2004)「UMAP Activity in Hiroshima University」アジア・太平洋大学交流機構
(University Mobility in Asia and Pacific, 以下 UMAP) 国際会議『UCTS
“Train-The-Trainer” Workshop』国際事務局主催、フィリピン、マニラ、2004年2
月16-20日
- 堀田泰司(2004)「Japanese Cultural Briefing」、UNITAR『Economic Development through
Investment and Trade: Foreign Direct Investment for Development Financing』研
修コース、国連訓練調査研究所(UNITAR)アジア太平洋地域広島事務所、2004年5
月16日
- 堀田泰司(2004)「Japanese Cultural Briefing」、UNITAR『Training Workshop on Sea and
Human Security』研修コース、国連訓練調査研究所(UNITAR)アジア太平洋地域
広島事務所、2004年7月4日
- 堀田泰司(2004)「グローバル化時代の高等教育の質保証と学生交流について：工学教育におけ
る教育交流の活用」、『第23回中国・四国工学教育協会総会』日本工学教育協会、2004
年7月5日

C. その他教育活動

浮田三郎 公開講座 現代ギリシアの言語と文化 2004年5月10日-31日